

子どもたちが描いた戦争

(会期: 令和4年1月12日～6月12日)



音羽美佐江さんが国民学校で描いた絵

ごあいさつ

子どもたちは、親鳥をみて飛ぶことを覚えるヒナのように、家族や学校、社会から豊かな人生をおくるための知恵や知識をまなびます。人や社会とのつながりの中で、夢にむかって成長する子どもたちは、時代をうつす鏡といえるでしょう。

日本は、昭和6年(1931年)から15年におよぶ暗い戦争の時代をむかえます。子どもたちは、戦争ごっこや兵器のおもちゃで遊び、戦場の兵士をたたえる映画や紙芝居を楽しみ、戦争にいく兵士を地域の大人といっしょに見送りました。平和な暮らしを知らずに育った子どもたちは、国民学校で戦争をすることの大切さや、国のために生命・身体を捧げることのすばらしさを学びました。戦争が日常の一部だったころの子どもたちの絵には、友だちの笑顔や楽しそうな家族の姿とともに、戦場で戦う兵士たちや戦車・戦闘機、大人の代わりに工場や田畑で働く自分たちの姿など、子どもたちを取りまく戦争の暗いカゲが描かれています。

戦場へむかう兵士の見送りや学校での軍事教育、戦争のための労働(勤労奉仕・勤労働員)、滋賀県への集団避難(集団学童疎開)、敵の飛行機の攻撃(空襲)など、子どもたちが見て、学び、そして体験した戦争について、当時の子どもたちが描いた絵とともに、多くの方々の体験談やモノ資料で紹介します。

令和4年1月12日

滋賀県平和祈念館

プロローグ

1 子どもたちが描いた戦争の絵

太平洋戦争の開戦が間近にせまった昭和16年(1941年)、尋常小学校が戦争のための教育を行う国民学校に変わりました。国民学校では子どもたちを、鋳型で同じ形のモノを作る工場のように、『国のために身体や命を捧げる国民』とする教育が行われました。

当時の学校では、楽しいお絵描き(図画)の授業でさえ、お手本をまねて描くことが求められたのです。今回の展示した絵の多くは、戦争のころの子どもたちが学校で描いたものです。教師用の図画の教科書には、「個性を重視し、子どもたちの創造力の育成をはかる」とする指導方針も記さ

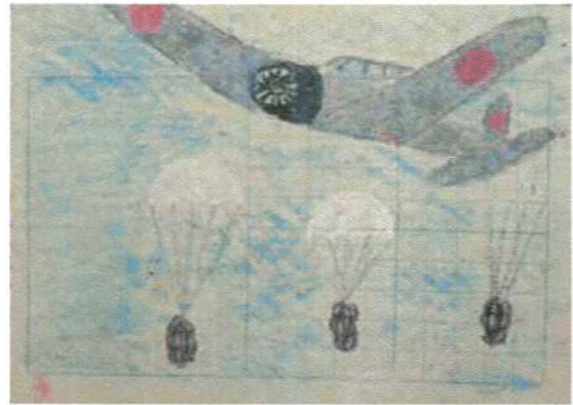
れていましたが、実際には多くの学校で、教科書などの戦争の絵を手本として、子どもたちに書き写させる授業が行われました。



慰問の絵「タカハシのおじさん がんばれ! がんばれ!」アキコさん作(当時(昭和16~20年)、国民学校1年生)甲良町から戦争に行った高橋助男さんをはげますため(慰問)の手紙の絵です。でも、高橋のおじさん帰って来なかったの・・・。



「戦車の絵」音羽美佐江さん作(昭和16年当時、西大路国民学校(現在の日野町立西大路小学校)3年生)



「飛行機と落下傘」武田倫江さん作(昭和19年当時、長浜国民学校(現在の長浜市立長浜小学校)2年礼組)

戦争が一番激しかったころ、先生から日本軍の落下傘(パラシュート)の話聞いて描きました。上手に描けたので『優』をもらいました。



絵画集「山脇君に贈る 五男一同」など

北五個荘尋常小学校五年男子児童一同から転校する山脇さんへ贈った絵画集など



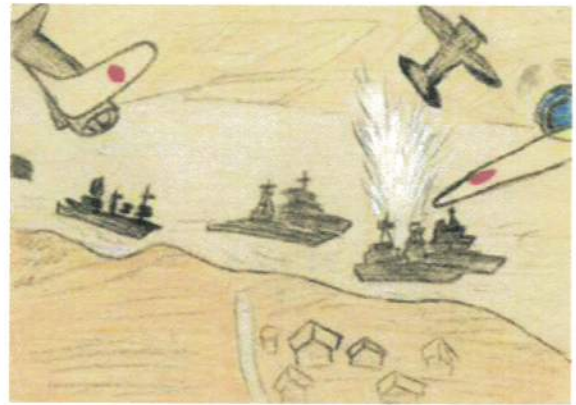
「東洋平和」(絵画集「山脇君に贈る 五男一同」より)

作者不詳(昭和14年当時、北五個荘尋常小学校5年生)

日本軍旗や満洲国軍旗と軍艦や戦車などを組み合わせた、戦争のポスターのデザイン画です。転校する山脇くんへ贈るために、5年生のみんなで描いて画集にしました。



「見ヨ 白兵戦」(絵画集「山脇君に贈る 五男一同」より)
 作者不詳(昭和14年当時、北五箇荘尋常小学校5年生)
 日中戦争での兵士同士の戦闘を描きました。転校する山脇くんへ贈った画集の絵です。



「敵の軍艦を攻撃する日本軍機」音羽美佐江さん作(昭和17年当時、西大路国民学校(現在の日野町立西大路小学校)4年生) 学校の授業で描いたのよ。



「南方の戦場で戦う兵士たち」音羽美佐江さん作(昭和19年当時、西大路国民学校6年生)

私の家に下宿していた小学校の川島先生が兵士になって、ビルマの戦場に送られたの。先生もこんな風に戦って亡くなったのかな・・・。



「航空記念日」(昭和18年)

作者不詳(甲賀郡の学校に通っていた児童)

この絵は、甲賀地域の戦争協力団体(甲賀銃後奉公会連合)が募集した『第4回航空記念日絵画コンクール』で優秀作に選ばれたんだ。慰問品(感謝とほげましの品物)として、戦地の山中文夫さんへ届けられました。



戦場へ向かう川島先生と音羽美佐江さんの家族

音羽美佐江さんは前列右端の女の子・昭和19年(1944年)ころ撮影

2 お手本のとおり描きました

【体験談—戦争のころに描いた絵—】

武田 倫江さん（長浜市）
戦争中、長浜国民学校（現在の長浜市立長浜小学校）に通っていた武田倫江さんは図画の授業でたくさん、絵を描きました。

小学校の一年生のころは、まだ平和だったから、お花とかの絵も描きましたね。女の子はお花が好きやでねえ。けど、戦争が激しくなると、飛行機とか兵隊さんとかの絵ばかりでした。（自分たちの）頭の中もそればかりだったし、教科書がそうだったから。この頃は先生だって、軍国主義一色の教育を受けてはるから、子どもらしさとか、独創性とかを見て（評価して）くれなかったわ。先生も「アメリカの兵隊さんというのは人間じゃない。獣だ。鬼畜米英だ」と、言っていましたから。だから、軍艦の絵とか飛行機の絵とか描いたら、先生が二重丸をくれたんです。

それに図工の時間は、（教科書に）見本でこういう絵があったの。切り抜き細工でも、始めから軍艦の絵なんかを描いた物を与えられましたからね。教材そのものがそうでしょ。（武田さんが描いた日の丸の絵は、）先生が「日の丸の旗の絵を見て同じように描きましょう」って、言わはったと思う。想像じゃなくて、それを見て同じ様な絵を描いたの。だからまったく同じでしょう。昔はそうやったの。面白くない絵やねえ。絵なんてものは、その子の感性で自由に描いたらええのに。今やったら「もっと独創的に描きなさい」って、言わはるかも知れんなあ。

でも、戦争のころはそれが当たり前だったの。雪の降る寒い冬でも継ぎ当てだらけの「もんぺ」の服（作業着のはかま）を着ていたけど、お友達も一緒に。だから、「辛かったなあ」という思いはないんですよ。「厳しい」とは思いませんでした。だって、日本中が軍国主義一色で、それが当然のような育ち方をしてたから。子どもは順応性がありますよね。やさしいところから急に厳しくなると「厳しいなあ」と思うでしょうけども、当時はそれが当たり前でしたから。

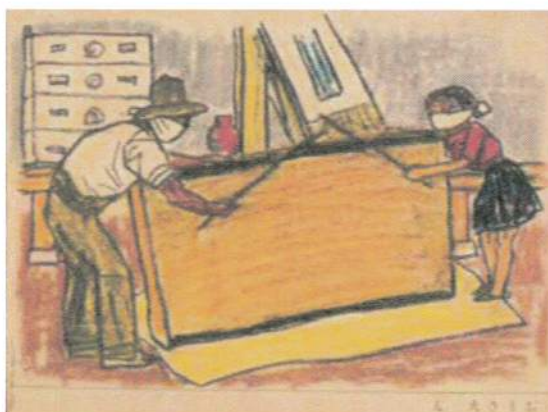


長浜国民学校の入学式集合写真（武田倫江さんは前列2列目右から5人目、昭和18年（1943年）4月撮影）



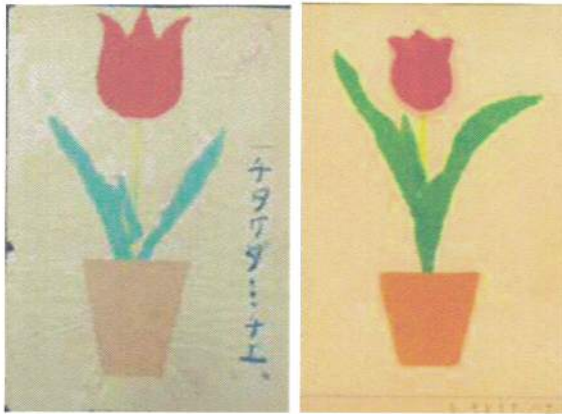
「大掃除」武田倫江さん作（昭和20年当時、長浜国民学校3年生）

手本の絵をマネて描いたのよ。そうじゃないと、こんなにうまく描けないもんね。



教科書の絵『大さうじ（大掃除）』

（国民学校教科書『初等科図画一』昭和17年2月21日、文部省発行）

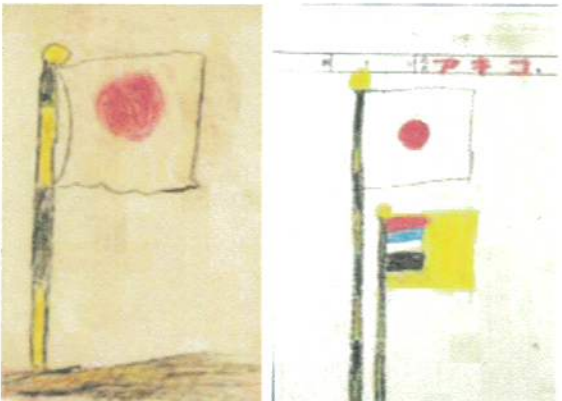
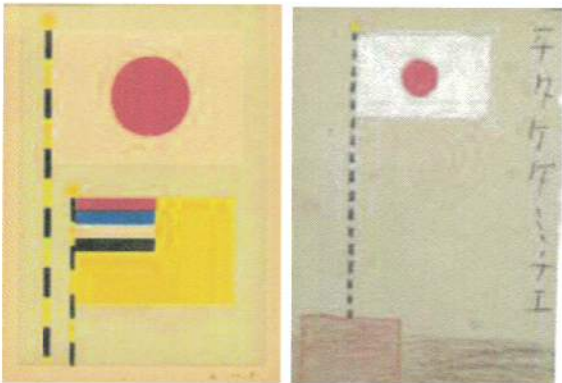


左：「チューリップの切り絵」武田倫江さん作
(昭和18年当時、長浜国民学校1年生)

右：教科書の絵『キレイなハナ』（国民学校教科書『エノホン一』昭和16年2月18日、文部省発行）



「日の丸にバンザイする少女」武田倫江さん作
(昭和20年当時、長浜国民学校3年生)



「授業で描いたハタ」（日の丸の旗・満洲国旗）の絵

左上：教科書の絵『ハタ』（国民学校教科書『エノホン一』昭和16年2月18日、文部省発行）

右上：「日の丸の旗」武田倫江さん作（昭和18年）

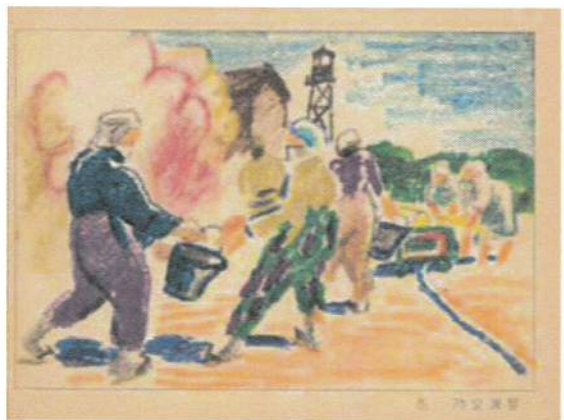
左下：「日の丸のハタ」音羽美佐江さん作（昭和15年）

右下：「日の丸と満洲国のハタ」アキコさん作
(昭和16~20年)

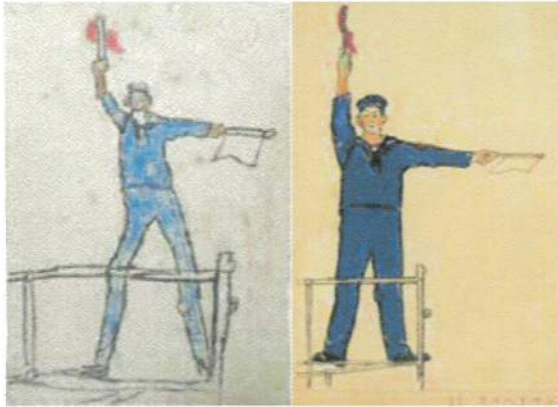


「防空演習」音羽美佐江さん作
(昭和17年当時、西大路国民学校4年生)

敵飛行機の爆弾で起きた火事を、子どもたちで消す練習をしたのよ。



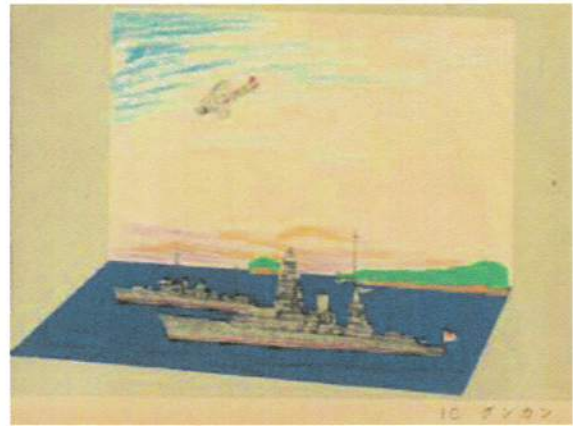
教科書の絵『防空演習』（国民学校教科書『初等科図画二女子用』昭和17年2月17日、文部省発行）



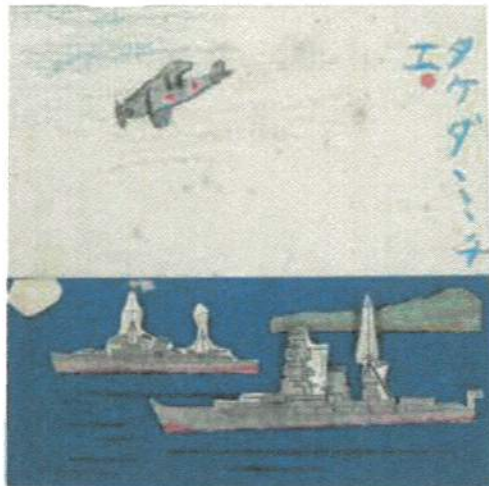
左：「スキヘイサン（水兵さん）」武田倫江さん作
 (昭和20年当時、長浜国民学校3年生)

教科書の絵を写して、水兵さんの絵を描きました。先生は「(絵の) 足が長すぎましたね。」て、コメントに書いてるけど・・・。
 みんなどう思う？

右：教科書の絵『スキヘイサン』(国民学校教科書『エノホニー』昭和16年2月18日、文部省発行)



教科書の絵『グンカン』(国民学校教科書『エノホニー』昭和16年2月18日、文部省発行)



「切り絵のグンカン（軍艦）」武田倫江さん作
 (昭和20年当時、長浜国民学校3年生)

今日の授業は、絵に色を塗って、みんなで軍艦の切り絵を作りました。

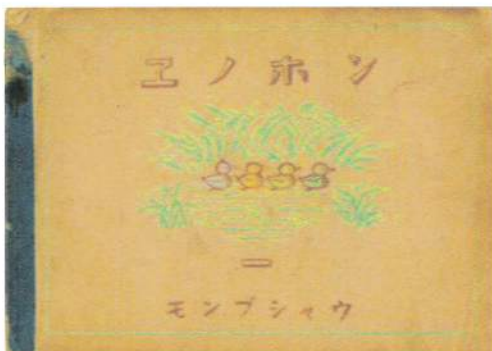


「一年生のラジオ体操」トシコさん作
 (昭和16～20年当時、国民学校1年生)

今のラジオ体操よりもきつい運動だったわ。



教科書の絵『タイサウ』(国民学校教科書『エノホニー』昭和16年2月18日、文部省発行)



国民学校教科書『エノホニー』の表紙





「大東亜戦争絵巻」北川巖さん・林宏さん作
(昭和17年ころ当時、大阪市の国民学校4年生ころ)

家族みんなで彦根市へ引っ越してくる(疎開)前に、大阪の学校の授業で友だちの林宏さんと作ったんだ。ぼくが絵を描いて、文字は林くんが書いてね。

太平洋戦争が始まったころの出来事を1コマまんがで描いて、絵巻にしたんだ。上手に描けているでしょ。だって、日本政府の広報誌『写真週報』のマンガなどを見て、かき写したからね。

絵のモデル

大東亜戦争漫画日記の

「ワシントン泥会談」

傷ついた(戦況が劣勢の)英国首相チャーチル(右側)と米国大統領ルーズベルト(左側)がその責任を相手に押し付け合っていることを皮肉っています。

絵のモデル

大東亜戦争漫画日記の

「マニラ陥落」

日本軍のフィリピン首都マニラへの攻撃によって、米軍がコレビドール島の要塞へ撤退したことを、爆発によって島へ飛ばされる米兵の姿で皮肉っています。

絵のモデル

大東亜戦争漫画日記の

「うわーッ ラジオ止めてくれ」

ラジオのニュース「空母レキシントン号などの沈没」から耳をふさいで逃げる米国大統領です。なお、日本政府が発表したこのニュースは誤報でした。

絵のモデル

大東亜戦争漫画日記の

「旅行気分の米俘虜護送さる」

香川県善通寺市にあった善通寺捕虜収容所には、グアム島やフィリピンなどで捕らえられた連合軍の捕虜が多い時で400人も収容されていました。

絵のモデル

大東亜戦争漫画日記の

「ほら早く旗を持つんだッ」

三国同盟の締結を知った米国ルーズベルト大統領が植民地の民衆の支持を得るために、金権などを与えたことを皮肉っています。北川巖さんの絵は元のマンガを少しアレンジしてますね。

絵のモデル

大東亜戦争漫画日記の

「フィリピン人大喜び」

マンガのフィリピン人は米国のクサリを断ち切って、日本首相の東条英機が持つ「独立」と書いた紙に歩み寄っていますが、実際には多くの民衆が国を守るため、日本軍と戦いました。

絵のモデル

大東亜戦争漫画日記の

「タイ 米英に宣戦布告」

タイ国の参戦により、戦争がより有利に進むとの政府見解を、象(タイ)の鼻で吹き飛ばされた米国大統領ルーズベルトと英国首相チャーチルで示しています。

絵のモデル

大東亜戦争漫画日記の

「お砂糖の特配に歓呼あがる」

日本軍が南方地域に進攻した結果、砂糖も一時的に国内でも出回りましたが、その後の戦況悪化により、日本は深刻な食料不足におちいりました。

絵のモデル

大東亜戦争漫画日記の

「風前の灯 シンガポール」

強風で消そうな英国軍兵士の上の口ソクの火は、日本軍の攻撃によって陥落寸前となったシンガポールを示しています。

絵のモデル

大東亜戦争漫画日誌の

「命の綱」

日本軍のビルマ侵攻で支援ルートが断たれて中国軍の命運がつかかっていることを、(日本軍の)銃剣が蒋介石(中華民国総統)のぶら下がる命綱を断ち切ろうとしていることで示しています。

絵のモデル

大東亜戦争漫画日誌の

「わが落下傘部隊初奇襲」

日本軍の空挺部隊がスマトラ島パレンバンへの降下作戦で初の戦果を挙げたことを伝えています。

以上、「大東亜戦争絵巻」の絵のモデル

第1章 戦争のころの子どもたち 一遊びと学校一

第1節 子どもたちの身近にあった戦争



パナー：戦争のころのお母さんと子ども

幼い我が子におもちゃの軍服を着せる母親



学校の教練？戦争ごっこ？



左：軍隊ごっこのお洋服

(海軍服風の子供服上下と水筒・飯ごう)

右：陸軍鉄カブト風のおもちゃのヘルメット

子どもたちは軍服を模した子供服を着て戦争ごっこを楽しみました。



紙芝居「子供召集令」(表紙)

戦争中、子どもたちや女性は、戦場へ送られた大人の男性に代わる労働力となって働くことが求められました。紙芝居は戦地へ行く兵士から、地域のことを託された少年「三太君」が子どもたちを召集(組織)し、困っている老人のための水汲みや神社の参道の修繕、柴刈りで稼いだお金の国への寄付、稲刈りのボランティアなど、当時の子どもたちに奨励された奉仕活動を地域のために率先して行う姿が描かれています。



紙芝居「白クンノキモン袋」(表紙と場面⑭・⑯)

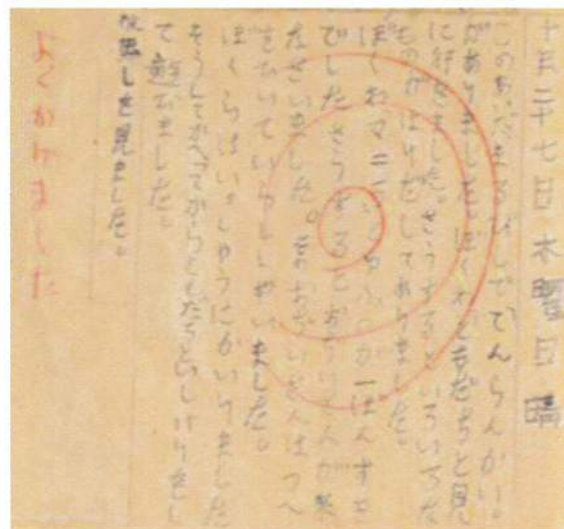
かわいらしい白犬「白くん」が、神社の掃除や農地開墾、金属回収などの勤勞奉仕や、兵士の出征見送りなど、当時、国が子どもたちに求めた愛国的な活動を率先して行う姿を描いた紙芝居です。題名にある「キモン袋(慰問袋)」は、当時の人々が戦地で戦う兵士などへの感謝とはげましを示すため、手紙や絵、日用品などを入れて送った袋です。

場面⑭は、「白くん」が戦争で傷ついた兵士の慰問で病院へ行き、兵士に似顔絵を描いてもらっている場面です。

場面⑯は「白くん」が似顔絵を慰問袋に入れて戦地へ送り、受け取った兵士たちが喜んでいる場面です。



上野欽一さん(当時、城西国民学校(現在の彦根市立城西小学校2年生)が戦争中にかいた絵日記

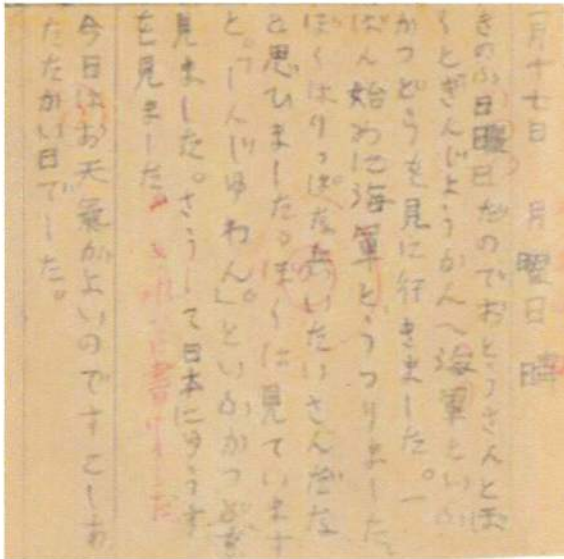
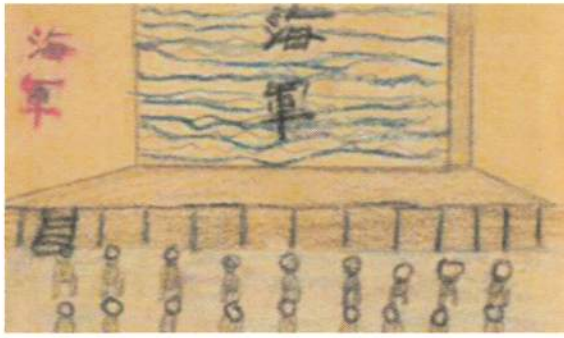


絵日記 昭和18年10月27日「百貨店の展覧会」

(上野欽一さん作)

国民学校初等科2年生の時に、先生から「絵日記書け」といわれたので、昭和18年6月～昭和19年2月までガンバって書いたんだ。

今日は友だちと、彦根市にあったマルビシ百貨店の絵画展覧会に行きました。ぼくは展覧会の絵の中で、日本が占領した「マニラ」を描いた絵が一番、気に入りました。



絵日記 昭和19年1月17日「映画を見にいきました」

(上野敏一さん作)

今日は、お父さんと映画館で映画を見ました。映画は「海軍」と「真珠湾」、「日本ニュース」の3本立てでした。映画を見て、「立派な兵隊さんだな〜」と思いました。



兵士と子どもたち 陶器製おもちゃの人形

双眼鏡を持つ陸軍兵士、航空兵、銃を持つ陸軍兵士、陸軍兵士、男の子、女の子



子どもたちの身近にあった戦争

おやつのアメ「渡辺軍国アメ」、おもちゃの木製軍用トラック、カルタ、児童向けの雑誌『愛国少年』、ぬり絵「ヨイコ ヌリエ」、児童用雑誌のふろく「カタパルト 飛行機を打ち出す」

戦争の絵のお茶わんで食べましょう！

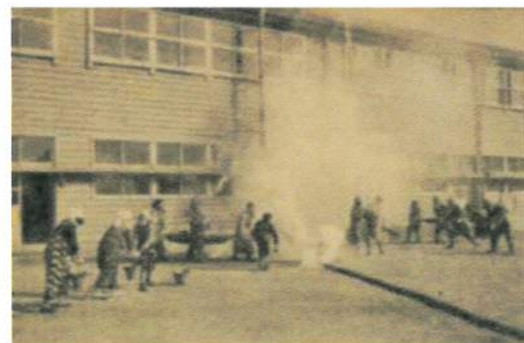
子ども用茶碗、陶製の箸置き

第2節 戦争のころの学校

1 戦争のための学校・授業

戦争のころの学校では、子どもたちを『戦争で役立つ国民』に育てる教育が行われました。地理や修身といった軍国主義的な教科だけでなく、国語や算数の教科書でさえ、戦争の話がたくさん使われています。さらに戦争が激しくなると、音楽の授業が敵機のエンジン音を聞き分ける訓練、体育が敵兵を殺す練習、理科の実験がダイナマイトの作り方など、授業そのものが戦争の練習（訓練）となりました。

中学校以上の多くの学校では、現役の軍人が指導する軍事訓練（学校教練）の授業がありました。子どもたちは、学校での教育や軍隊さながらの軍事訓練によって、兵士となることや国のため兵器工場や農地で働くこと、兵士を生み育てる母親となることなど、子どもたちに課せられた将来の義務を自然と受け入れていったのです。



学校の防空訓練



小学生の田植え実習（石井田勤二さん撮影）



戦争のころのお絵描きの道具

クレパス、クレヨン「國画クレヨン」、
クレヨン「タマイロクレヨン」、
えんぴつ「武運長久」鉛筆、画用紙「特選 画学紙」

国民学校でのお勉強

国民学校の国語教科書『初等科国語』七、
国民学校の修身教科書『初等科修身』一、
ノート「練習帳 ヨミカタ」、ノート、
算数練習用カード、『国民学校写真解説』

【体験談—国民学校のおもいで—】

秋山 ひささん（神戸市）

太平洋戦争がはじまった昭和16年（1941年）に城西国民学校（現在の彦根市立城西小学校）に入学したんです。家からは東の通用門が近かったんですけど、よっぽどでないとう通用門は通れなかったんです。（学校の）規則で「必ず正門から入って、両陛下の御真影（天皇・皇后の写真）が納めてある奉安殿へお礼をしてから校内に入る。帰る時も同じように正門から出る」という決まりになっていたんです。だから毎日、奉安殿の前を通過して通学してましたね。

学校は本当に軍国主義教育（軍隊や戦争を最優先する考えの教育）でしたから、皇居礼拝（皇居の方向へ頭を下げ、手を合わせて拝むこと）やら国旗掲揚（日の丸の

旗を揚げること）やらやっていました。月に1回ぐらいかな、土曜日に校庭に集まって分列行進（軍隊式の行進）の練習をさせられましたね。学年ごとに隊列を組んで並ぶんですよ。軍隊と一緒にしたいなこと。「異常なし」とか言ってね、児童みんなが校内を隊列組んで歩くんですね。軍隊と同じような訓練ですね。少年・少女の軍隊訓練でした。

夏休みには国に役立つための宿題が出ました。

それから夏休みには、ドクダミなどの薬草を採る宿題がありました。それを家で干して乾燥したものを、夏休み明けに学校へ持って行きました。それが戦地へ行く兵隊さんなどの胃腸薬とかになったそうです。そういった国に役立つための宿題がありました。

当時は、どっちかという軍国少女（戦争に賛成する女の子）だったのかもわかりません。分列行進で隊長をやっていたから。それは自分が志願したわけではないけども…。「兵隊さん ありがとう」という気持ちはありましたね。それを（学校で）教えられていましたからね。日本は強いと思ってなかったし、弱いとも思ってなかったけど、日本が戦争に負けると思わなかったな。でも、子どもですもん。私は、毎日お腹が空いてばかりでしたね。



国民学校のころの秋山ひささん

慰問作品入賞の賞状「応徴士慰問激励児童作品入賞について」 国民学校初等科三年の秋山ひささんが受賞
国民学校一年生の通信簿
彦根市彦根西国民学校第一学年組秋山ひささんのもの



国民学校の児童（児童用学生服 上・下）・木銃

2 戦争のための授業・軍事教練

【体験談—奉安殿をお守りする係に任命されると…—】

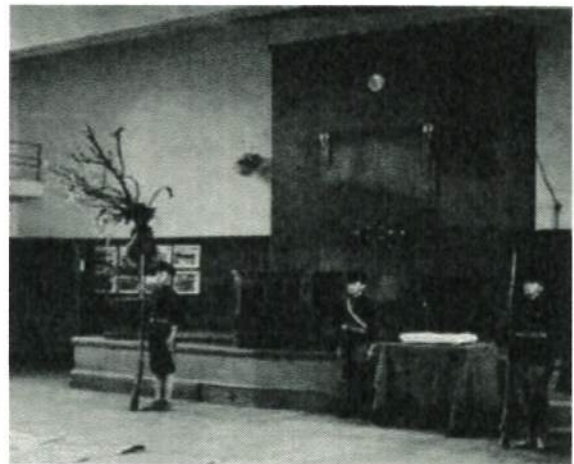
八木 勝さん（高島市）

現代の子どもたちも、学校でクラス委員や図書係などの係になって、みんなのためにがんばっていますね。でも、戦争のころの学校では、奉安殿の警護係

という恐ろしい係がありました。

むかし、私らが通った本庄国民学校（現在の高島市立本庄小学校）に奉安殿といって、教育勅語などが納められてた建物があったんや。私と太田君ともう一人の3人が、先生から奉安殿を守る係に選ばれたんや。空襲やらがあった場合は、みんなは「お前はここへ逃げ、お前はここや」といわれて、松林とかに逃げよったけど、私らは奉安殿を守らなならんで、逃げられへんかったわ。怖いけど、しょうがないわな。学校の先生の命令やもん。そんで、先生は児童を引率して逃げてた。

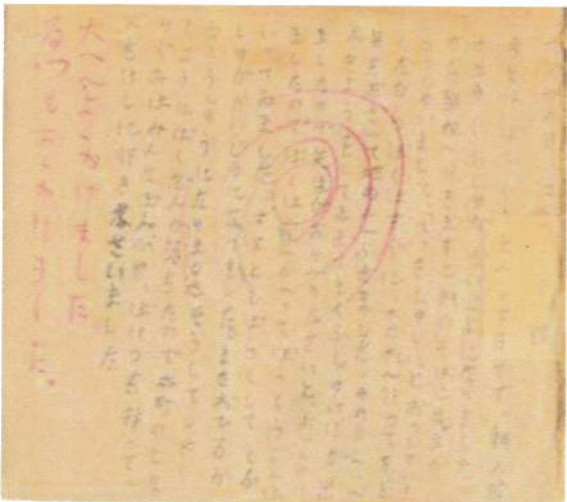
その時分は空襲警報だけで、まだ機銃掃射とか（敵機からの攻撃が）なかったけど、終戦前に（安曇川河口付近の船木飛行場で訓練していた際に）グライダーの格納庫やらを機銃掃射された時は怖かったわ。そらあ、恐ろしかったわ。



奉安庫を警護する子どもたち



広徳寺の山上庚申奉安殿（甲賀市水口町所在、旧貴生川町立国民学校の奉安殿を戦後に移築した建物）



絵日記 昭和18年9月18日「防空演習」(上野欽一さん作)
 絵は学校の防空演習の様子だよ。先生の合図に合わせて、みんなが校庭で耳と目を押さえて、腹ばいになる訓練をしています。秋山ひささんの体験談にも登場する奉安殿(門を入れて右側の建物)も描かれているよ。

【体験談—戦争に役立つための授業—】

中原 敏雄さん(近江八幡市)

中原敏雄さんが通っていた昭和17年(1942年)ころの森之宮国民学校(現在の大阪市立玉造小学校)で行われていた戦争のための授業です。

5年生、6年生ぐらい(昭和17~18年(1942~1943年ころ))になると体育の時間は分列行進(軍隊式の行進)だとか、手旗信号(海軍で用いられた通信手段)だとか、そういうものによって変わっていきましたね。

それに、音楽の時間に飛行機の爆音(敵の飛行機のエンジン音)のレコードを聞いて識別することをしましたね。(兵士となった時に)敵の飛行機が何型のどいう飛行機であるかを爆音で聞き分けるための授業がありました。

授業で防空訓練(空襲に備える訓練)もありましたね。「爆弾が落ちると爆風で目玉が飛び出すし、耳の鼓膜が破れるから」といって、地面に伏せる時に(両手で)しっかり押さえていましたね。



子どもたちの防空訓練

爆弾から身を守る訓練を受けている子どもたちです。みんなうつ伏せになっているけど、どんな顔をしているのかな?(戦争中に子供時代を過ごした正野雄三さんが戦後に制作した土人形)

【体験談—戦争のための基礎練習—】

坪田 末治郎さん・久野 孝子さん(東近江市)

坪田末治郎さんは、豊椋小学校(現在の東近江市立湖東第三小学校)が国民学校に変わった昭和16年(1941年)に入学されました。

1~2年生のころは、まあ勉強の時間はありましたね。体育の時間に鉄棒とか跳び箱とかをやったのは3年生ぐらいまでで、それから後は、戦争で戦える人間としての教育でした。軍事教練(訓練)とまではいきませんが、先生が体育の時間に「ちょうど握れるぐらいの1mほどの棒を持って来い」って言うわけですよ。上級生は木銃(訓練に使う銃の形をした木の棒)を使ってましたけど。だから、親父に棒を作ってもらって学校に行きました。何やるかいうたら、先生が「行けー」言うたら、棒を持って敵を殴り殺す練習。それを何回もやりました。こんな棒持って突っ込んで行っても…。「何でこんなことしなきゃなんないんだろう」って思っていました。

[坪田末治郎さん]

当時、大阪市で暮らしていた久野孝子さんの国民学校の体育の授業です。

私が1~4年生までは別に何もなかったんですよ。でも、(国民学校に変わった)5年生になってからね、体育の時間に女子は長刀(の授業)が始まったんです。木で作った長刀で、面とか胴とか足とか腕とかを打つ長刀の練習があったんです。

6年生になったら伝令(軍隊で上官の命令を離れた場所の部隊に伝える)の練習。それから担任の先生の指導で、手りゅう弾の投げ方の練習もありました。(練習用の手りゅう弾は)ちょうどレモンのような形でね、鉛色やったな。わりに重くて、投げても壊れないんやわ。(投げ方を)まだぜんぜん、忘れないわ。こう持ってね、足を斜めに構えて、ピンを抜く動作をして、「1、2、3」って(数えてから)、後ろから前にパーンと投げる練習でしたな。
[久野孝子さん]



子どもたちが投げた模擬手りゅう弾・本物の手りゅう弾、戦争のやり方を教える教科書(学校での軍事教練の教科書『学校教練教科書 術科之部』前編・後編 各1冊(昭和16・17年、軍人会館図書部発行))



体育の授業(なぎなたの練習)(石井田勤二さん撮影)



手りゅう弾の投げ方(『学校教練教科書』より)

『瀨田国民学校五年習組 学級日誌』

瀨田国民学校絵日記(昭和十九年五年習組)
【大津市歴史文化財】

昭和19年(1944年)の瀨田国民学校(現在の天津市立瀨田小学校)5年習組(女子児童のクラス)の子どもたちが絵日記の形で記した学級日誌です。

担任の西川綾子先生の提案で始まった学級日誌は、4月5日の始業式から昭和20年(1945年)3月19日の卒業式前日まで、ほぼ1年間続きました。そこには、学校での出来事・行事だけでなく、兵士の見送りや疎開児童との交流、勤労奉仕、空襲など、子どもたちを取り巻く戦争中の日常が、子どもらしい感性で生き生きと描かれています。



学級日誌(昭和19年)9月14日

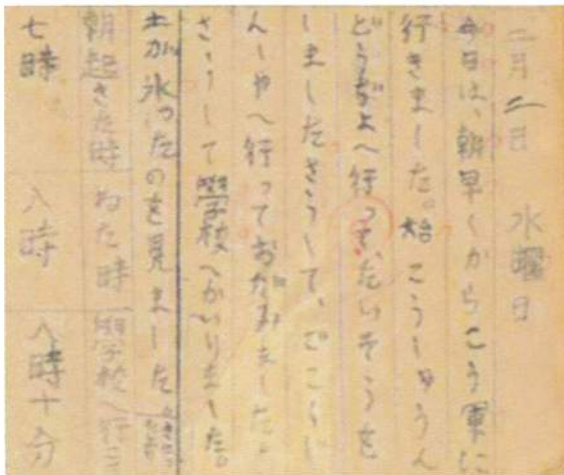
「遠足 きれいな秋空の下で飛行機を飛ばす」



学級日誌 6月5日「武道」

今日の6時間目は、初めての武道（長刀）の授業でした。敵を防ぐために武道を習えて、とってもうれしかったです。絵は練習用の長刀を持っているところです。

（『瀬田国民学校五年智組 学級日誌』「昭和19年」六月五日）



絵日記 昭和19年2月2日「行軍」（上野敏一さん作）

行軍の途中に寄った運動場で体操をしている絵だよ。ぼくらの行軍は、農学校生のお兄ちゃんたちと違って、今の遠足みたいな感じの短い距離を歩いたんだ。

【体験談—軍事訓練（学校教練）の先生は本物の軍人でした—】 西 義弘さん（近江八幡市）

昭和18年（1943年）に栗太農学校（現在の県立草津高校）に入学された西義弘さんの学校での軍事訓練の思い出です。

（学校の軍事訓練で）一晩中、行軍（隊列を組んで行進）したこともあったわ。ほらつらかったがな。140 cmあるかないかの小さい身体やったで、大きい身体の人（生徒）とは、えらい違いやった。

夕方、長い木銃（銃の形をした重い木の棒）を持たされて、学校のある草津から野洲川まで行って、そして、野洲川を甲賀のほうへ「ずーっ」と歩いていくねん。配属将校（学校に配属された軍人）が（隊列の）前と後ろとについてるから、「ダーッ」と走らされたりした。（重い）木銃を持ってやで。そんなことをしながら、一晩中や。学校に帰って来てたらちようど（夜明け頃となる）一晩中の行軍。そんなことまでしてたんやがな。それに、こっちが一生懸命やっても、その教官がちょっとでも気に入らんかったら「パパンッ」て、気晴らしに殴りよるし。

配属将校は毎朝かならず、校門の前に長い剣をぶら下げて立ってたんや。そこで「チャーッ」と、敬礼（軍隊式のあいさつを）することになってたんやけど、敬礼しなかったり、やり方が悪いと、「はい、運動場1周り走って来い」て、なったんや。そんなもん、安土小学校やったら運動場も小さいから良いけど、栗太農学校の運動場（現在の県立湖南農業高校の運動場）は大きくて、200メートル以上もあったんやで。

（教練では）運動場走らされたり、ホフク前進（戦場で腹ばいになって前に進む）の練習もあったわ。

（ホフク前進すると袖やズボンが）ドロドロに汚れて、汚れて。お母さんはそれを洗濯せんならんし、大変やった。



市街地での射撃訓練の授業（今津中学校（現在の県立高島高校）の学校教練を石井田勤二さんが撮影）

【体験談—勉強教えてくれんと軍事訓練でした—】

八木 勝さん（高島市）

戦争が激しくなると、多くの飛行機やパイロットを失った日本軍は戦力の立て直しをはかるため、子どもたちを新たなパイロットとして育成することを始めました。昭和19年（1944年）に本庄国民学校高等科1年生（現在の高島市立本庄小学校、中学1年生に相当）になった八木勝さんたちは、毎日の授業の代わりに、陸軍船木飛行場（現在の県立びわ湖こどもの国付近）へ訓練に行くことを命じられました。

わたらの小さい時から『県立びわ湖こどもの国』の一带は全部、船木飛行場やったんや。そらあ、美しい原っぱやった。わたらは兵隊（兵士）じゃなかったけど、高等科1年生から毎日、飛行場でグライダーの稽古（操縦練習）をしてたんや。カバンや教科書も持たんと、朝から飛行場でグライダーに乗ってたんや。学校へ行っても勉強教えてくれへん。それに（学校の軍事訓練で）強制的に皆、行かんならんかった。けど、先生なんかは（訓練の引率に）来なんだなあ。本物の航空隊の大尉か大佐が教官で来てはって、グライダーの乗り方を教えてもろてたんや。

1クラスに30人の生徒がいるわな。その30人が15名ずつに分かれて、両方からグライダーのゴムサック（太いゴムヒモ）を「1、2、1、2…」で、前に引っ張るんや。（機体の）後ろを打った杭に（ヒモで）止めとく者がおって、教官が「（ヒモを）離せ」って言わはると、（グライダーが）地上から何mか「ポ

ーン」と飛びよるんやわ。

でも、人数が多いやろ。それに、教官も昼まで教えて、午後は休みはるねん。1回（グライダーに乗って操縦訓練するの）に半日がかりや。29回引っ張って、1回だけ乗せてもらえるんや。グライダーが飛んで行きよったら、また持って帰ってきて、グライダーにゴムサックを引っかけて、「1、2、1、2…」で、引っ張るねん。よっぽど気張って（がんばってゴムヒモを）引っ張らな、乗せてもらえへんかったんや。

今は気楽に話してるけど、その時は地獄みたいやった。そやろ、学校へ行っても勉強教えてくれへん。それに強制的に訓練やで。高等科を卒業すると、「みんな軍隊に行かんならん」と、思ってたから、（訓練の話は）親にもせなんだわ。楽しい話しやったら喋るけどな。そんなもん、しかられ通しやで。親に話したら、心配しはるやろ。「もう、行くな！」で、なるわな。

その後、八木勝さんは半強制的に志願させられ、陸軍に入隊しました。幸いなことに、間もなく終戦となったため、戦地へ行かずに済んだそうです。



上・下：学校の軍事教練でグライダーの練習をする子どもたち



学級日誌 9月20日「航空日 模型飛行機を飛ばす」

今日はめでたい航空日です。全校児童のみんなが模型飛行機を作って来て、運動場で飛ばしました。私たちのグライダー（模型飛行機）は高く飛んでいきました。

（『瀬田国民学校五年智組 学級日誌』「昭和19年」九月二十日）



戦争に行くために模型飛行機を作ろう！

左上：航空兵志願のためのパンフレット『陸軍少年飛行兵 志願問答—志願の手引き—』（陸軍航空本部発行）

右上：『模型飛行機の作り方』上巻（F・シューター、A・リビッシ共著、碓永東士訳、昭和16年11月25日、科学主義工業社発行）

下：簡易模型飛行機

第2章 感謝する子どもたち・働く子どもたち

第1節 兵士の出征見送り・戦死者のお出迎え

15年間におよぶ戦争のなか、滋賀県からも9万人以上の人たちが命令（召集）や自らの意思（志願）によって、兵士や軍の関係者（軍属）となり、戦場

へ向かいました。こうした人たちの多くは、地域（市町村役場）や様々な団体が主催する壮行会で大勢の人に見送られて、戦地へ旅立って行きました。一方、戦争に行った32,592人もの人たちが命を落とし、2度とふるさとの土を踏むことができませんでした。戦争中、そうした戦死者の遺骨や遺骨箱はふるさとに送り帰され、たくさんの人たちがお出迎えするなか、地域（市町村役場）が主催する葬儀（村葬など）で弔われました。

こうした出征見送りや戦死者のお出迎えは、地域全員で行うものとされ、子どもたちも大人とともに参加することが求められました。子どもたちは、毎日のように行われた兵士の見送りや戦死者のお出迎えに、学校や地域を通じて参加することが求められたのです。

【体験談—戦争に行く兵士の見送り—】

中川 賀津子さん（高島市）

小学校のころに戦争へ行く人々の見送りに参加した中川賀津子さんの思い出です。

昭和13年か、14年（1938年・1939年）のころ、兄が出征し（戦争に行っ）たんですよ。小学校3年ぐらいでしたけど、その頃はまた悲壮感って、ぜんぜんなかったです。

門口（家の門の前）に『祝出征』という門（お祝いのゲート）をつくってね、（家族や親類、友人、近所の人たちが）集まって、お座敷でご馳走を食べて。なんか人が集まるから楽しい感じでしたね。それから、太湖汽船（現在の琵琶湖汽船の船）に乗って出征する（戦争へ行く）兄を見送りに行きました。あの頃はまだゆとりがあったんで、（船から伸びる）五色のテープがキレイでしたよ。大人たちも「がんばってこいよ」という感じでした。

そして、（まったく知らない兵士の見送りに）学校からみんなで行かされました。小旗もって行くんです。江若鉄道（現在の江若交通が運営した鉄道）で行く人やバスで行かれる方もありましたね。小浜までいくのかなあ。ぜんぜん、他人の人（知らない人）でしたけど、泣きながら手を振ってね、「帰ってくるからなあ」というてましたね。そんな記憶もありますよ。

日本の敗色が色濃くなった昭和20年(1945年)、藤樹高等女学校2年生(現在の県立高島高校、年齢は中学2年生のころ)の中川賀津子さんが高島駅前で見送りに行く兵士の姿です。

記憶に残っているのは、高島駅で兵隊さんが列車に乗って(部隊に合流するために)行くんですけど、かんじんの兵隊さんがね、へべレケ(泥酔状態)に酔うてはるんですよ。腰が立たないぐらい(酔っぱらっていました)。5~6人の親戚が泣きながら、「しっかりせえ、しっかりせえ」というてねえ。福井に向かう電車で、腰が立たなくなったその人を引きずるように乗せて行かしたんです。

あとで聞いたら、奥さんと小さい子どもを5人置いてねえ(戦争に行かれたそうです)。生きて帰れるか保証がないでしょ。今にして思うと「あんな風にお酒でまぎらわさんと(家族から)離れられなかったんやろなあ」と思いますね。あの頃は、通っていた女学校から毎日のように見送りに行っていました。それが子どもも、仕事の1つでしたね。

【体験談—戦争に行く兵士と見送る妻の気持ち—】

近藤 良子さん(彦根市)

近藤良子さんは城南国民学校(現在の彦根市立城南小学校)の6年生の時に終戦を迎えました。戦争に行く兵士の見送りに参加した時の思い出です。

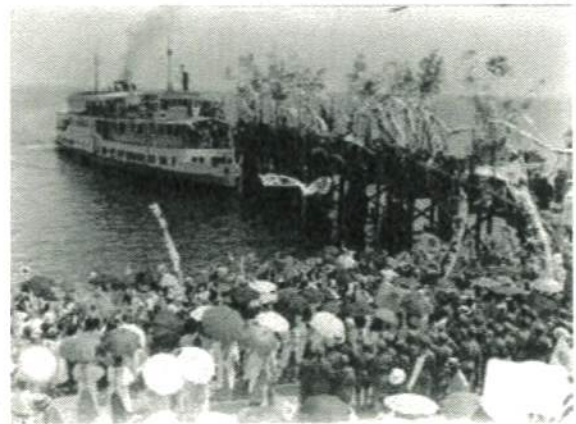
私らも出征兵士(戦争に行く兵士)の見送りに行きました。町内で出征兵士があると、学校から「今日は何時にどここの誰々さんが出征しはるから」といって、連絡が来たと思います。

兵士の見送りの時は、おうち(戦争へ行く兵士の自宅)と村の役場の前で壮行式(お祝い会)があって、自治会長さんが「何々君~ ばんざ~い、ばんざ~い」といって(スピーチして、戦争に行く本人が)、「恩賜の名誉(国のために戦争に行く名誉)にあずかりまして」って、あいさつしはるの。奥さんや家族も心(の中)では泣いてはるけども、「ばんざ~い、ばんざ~い」って、見送ったのよ。私も「いざ征け~♪、つわもの~、日本男児~。万歳」って、お見送りの歌も意味が分からんのに歌うてましたわ。

知り合いのおじさんは、乳飲み子(赤ちゃん)がいても召集(兵士となる命令書)が来たから、出征

し(戦争に行く)はったんや。「ばんざ~い、ばんざ~い」って、みんなが見送っている時に、その人な、かわいそうに「ぼん(我が子よ)、良い子になれよ」って、こうやって(頭をなでて、戦争に)行かした。

それで(その時)、奥さんに「お婆さんはどんな気持ちや」って聞いたら、「私一人なら、そらかなわんやろけどな。みんなやで、もうそらしょうがない(私だけが夫を戦争に取られるのだったら、とても耐えられないけど、みんなが同じ目にあっているから、しかたないわね)」て、言いはったわ。結局、(戦争に行っただけのおじさんは)戦死しはったんや。



戦争へ行く兵士の見送り

(今津桟橋にて、昭和12年に石井田勤二さん撮影)



戦争へ行く兵士の見送り(江若鉄道の近江今津駅にて)

(昭和11年9月28日に石井田勤二さん撮影)



戦争へ行く兵士の見送り（近江今津駅付近？）
（昭和10年9月4日に石井田勤二さん撮影）



戦争へ行く兵士の見送り
（江若鉄道の近江今津駅にて、石井田勤二さん撮影）

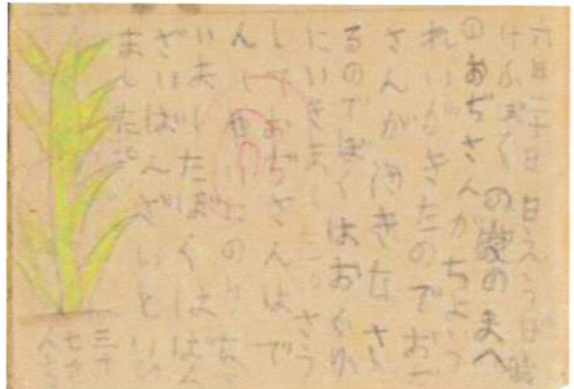


戦争へ行く兵士の見送り
（中浜太湖汽船乗り場付近にて、石井田勤二さん撮影）



出征の風景

戦争中に子供時代を過ごした正野雄三さんが戦後に制作した土人形



絵日記 昭和18年6月20日「近所のおじさんのお見送り」
（上野欽一さん作）

今日は、兵器工場などで働くことを命じられた近所のおじさんが出発する日でした。ほくも地域の人たちといっしょに、おじさんのお見送りに行ったんだ。駅で、おじさんの電車を「バンザイ、バンザイ」て、見送りました。



学級日誌 6月6日「壮行式」

私たちは授業の後、先生に連れられて、戦争に行く本郷清信さんという人の壮行式に行きました。神主さんの祝詞や町長さんのスピーチの後で、兵士となる本郷さんがあいさつをされました。その後で、みんなで本郷さんに何度も「ばんざい」をしました。

(『瀬田国民学校五年智組 学級日誌』(昭和19年)六月六日)



兵士の見送りに使われたもの(1) 「爱国唱歌集」、ラッパ



兵士の見送りに使われたもの(2) 日の丸の小旗2点

右の旗には「京都市有隣尋常小学校児童一同」の墨書があります。

【体験談—戦死者のお迎えをサボって、先生にしかられました—】 秋山 ひささん(神戸市)

戦争のころ、地域をあげて、戦争に行く兵士の見送りや、ふるさとに届いた戦死者の遺骨箱の出迎えが行われました。子どもたちも学校からの連絡を受けて、そうした行事に参加することが当たり前となっていました。でも当時、秋山ひささんは、ある事情でそれをサボったみたいです。

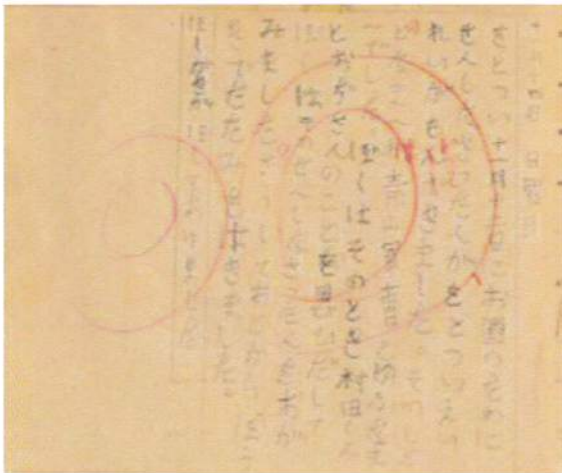
戦争が始まってすぐの1~2年(生の時)はのどかだったんですよ。食料(事情)もまだよかったですね。3年生(昭和18年(1943年))になると、もう食べる物がなくて、親と一緒に芹川の向かいの大藪(彦根市大藪町)まで買い出し(農家から直接、お米や野菜などを売ってもらいに)に行っていました。今は住宅地ですけど、当時は芹川の向こう(側)は田んぼでした。

お百姓さんは、「お米じゃなくて、おイモでもなんでも、食べられる物ならなんでもいいから分けて下さい」と言っても、なかなか分けてくれなかったですね。もちろん買うんですけどもね。「買う」といっても、現金はそんなにないですからね。着物と交換したりもしましたよ。それで、知り合いのお百姓さんにお米を分けてもらったんですけどもね。その人は「買ったといったらいけませんよ。もろうたと言って!」って、いってました。(法律で禁止されていた)ヤミの売買になったんでしょうね。でも、そのころは子ども心に「金を出して買ったのに、なんでもらったと言わないいけないの?」と思ってました。

じつは、母と一緒に大藪へ買い出しに行ったその日がね、英霊(戦死者)を迎えるために学校へ行かないかん日だったんですよ。英霊(戦死者)を迎えるために、浴道で頭を下げないかん日でした。私は、それに行かずに買い出しに行ったんですよ。

それを同級生に見つかってね、「(ひさちゃんが)買い出しに来てはったよ」って、先生に告げ口されたんです。その同級生はそれにちゃんと(きっちり)行ったけど、私は欠席でしょ。そしたら翌日、先生に怒られた。「昨日、(戦死者のお迎えに)来なかった人立ちなさい」って。先生は百も承知で、「あなた、昨日は何していました?」って、私をターゲットにして言わはったから。小学校であんまり怒られたこ

とがないのにね。まあ、いろいろありましたね。あんまり小学校のええ思い出はないです。



絵日記 昭和18年11月14日「戦死した人が帰って来ました」
(上野欽一さん作)

今日は戦死者の追悼式がありました。「英霊」として戻って来た青山軍曹という名前の人を、ほくも地域の人たちといっしょに拝みました。



兵士の村葬 (地域での葬儀)
(高島郡にて、石井田勘二さん撮影)

第2節 子どもたちからの慰問

1 特攻と子どもたちからの慰問

吉田信太郎さんは絵を描くことが大好きな青年でした。教師を目指して学んでいた滋賀師範学校(現在の滋賀大学教育学部)でも、穏やかな風景画や肖像画を多く描いています。卒業前の昭和18年(1943年)夏、吉田さんは教師からの強い勧めもあり、海軍の航空兵に志願し、飛行機のパイロットになりました。

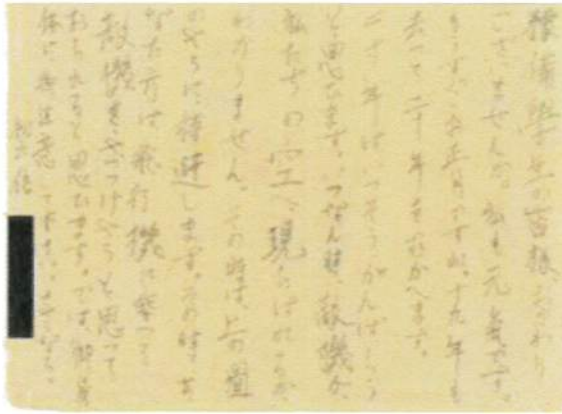
当時、軍は次世代の兵力・労働力となる子どもたちの教育のため、『模範』となる若い志願兵を学校の授業に派遣しました。教師を目指していた吉田さんは、師範学校での経験を生かし、積極的に学校への出前授業や学校からの基地見学の指導を行いました。その結果、子供たちからのたくさんの慰問(感謝とはげまし)の手紙・ハガキが吉田さんのもとに届きました。それらの多くは、模範解答のような感謝・はげましの文章とともに、自分たちも国のためがんばっていることや、他愛もない出来事が記されており、かわいらしい絵やイラストが添えられています。

昭和20年(1945年)3月31日、吉田さんの部隊に米軍艦艇への飛行機での体当たり攻撃(特攻)の命令が下りました。特攻への参加は志願制でした。原則として断ることも可能でしたが、断れば『恥ずべき卑怯者』として軍内部や人々からの激しい非難・軽蔑にさらされました。

昭和20年(1945年)4月6日、愛用の手帳に家族への書置きを残して沖縄近海で亡くなった吉田信太郎さん(当時21才)が特攻への参加を決意したとき、多くの子どもたちから贈られた声援や慰問(感謝・はげまし)の手紙はどういった意味を持ったのでしょうか。



膳所国民学校6年生の女子児童から吉田信太郎さんへの手紙3点



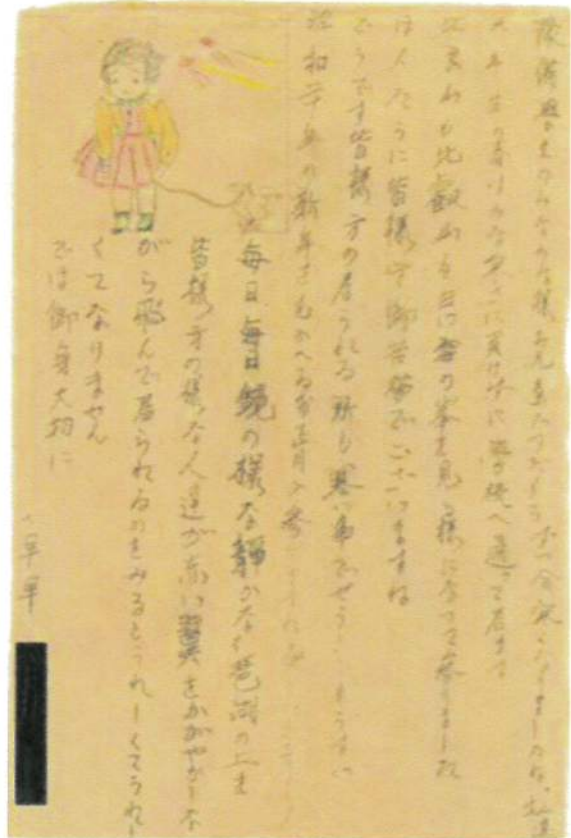
膳所国民学校 初等科六年信組 ●●●●(氏名)

【内容の訳文】
 海軍飛行予科練習生の皆さま、おわかりございませんか。私も元気です。もうすぐお正月ですね。昭和十九年も過ぎさって、昭和二十年をむかえます。
 昭和二十年は一層、がんばろうと思います。いつ何時、敵機(×車機)が私たちの空(空母原上空)にへ飛来するかわかりません。その時は、上の図のように、(防空壕へ)一時的な避難をします。そんな時には、あなた方は飛行機に乗って、敵機を撃退しようと思つてらっしゃるのでしょうか。では、お身体に気をつけてください。さようなら。

膳所国民学校六年生の子供から吉田信太郎さんへの手紙
 その1



慰問の手紙に添えられた水彩画
 (膳所国民学校六年生の子供から贈られたもの)



【内容の訳文】
 海軍飛行予科練習生の皆さま、お元気ですか？ もうずいぶん寒くなりましたね。私達、国民学校六年生は、みんな寒さに負けずに学校へ通っています。
 比良山や比叡山の峰の上に白い雪が見えるようになってきました。本当に、皆さんご苦労さまです。
 どうですか。皆さまの暮らしている場所も寒いことでしょうか！もうすぐ昭和二十年の新年を迎えるお正月が来ますね。楽しいお正月を！
 毎日、毎日、鏡のように静かな琵琶湖の上を皆さま方のような人達(パイロットの訓練生たち)が(練習機)赤いツバサを輝かせながら飛んでいるのを見ると、うれしくて、うれしくて、うれしくてなりません。
 では、お身体を大切に
 草々 ●●●●(氏名)

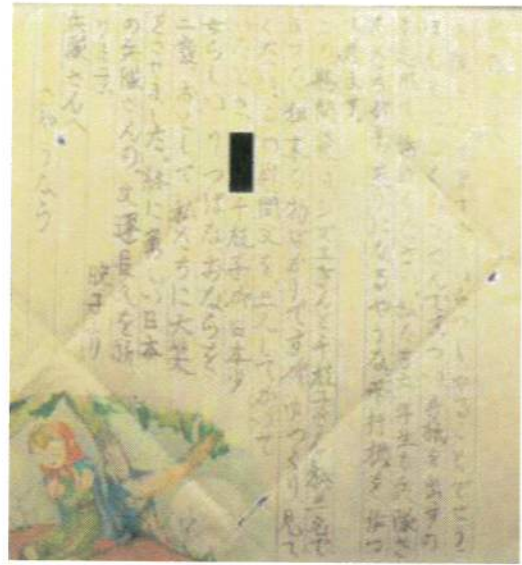
膳所国民学校六年生の子供から吉田信太郎さんへの手紙
 その2



膳所国民学校六年生の女子児童から吉田信太郎さんへの手紙
その3



基地へ校外学習か慰問に訪れた子どもたちと吉田信太郎さん
(後方中央のやや左側の人物)



〔内容の訳文〕

兵隊さんへ (吉田信太郎さんへ)

兵隊さんは、お元気で働いていることと思います。本当にご苦労さまです。つい、手紙を出すことを忘れておりました。お許しください。私たち国民学校の六年生も(兵器工場へ働きに行くこととなり)、吉田さんたちが乗られるような飛行機を作っています。

この慰問袋はシズエさんと千枝子さんと私の三人で作りました。粗末な物(手紙)ばかりですが、ゆつくり読んでみてください。この慰問文を三人で書いていた時に、千枝子ちゃんが日本の少女らしい犬(爆弾)のよう(オナラ)を三発も落として、私たちに大笑いさせました。最後になりましたが、勇ましい日本の兵隊さんの武運長久をお祈りします。 映子より

兵隊さんへ さようなら



手紙の封筒

国民学校6年生の女子児童から吉田信太郎さんへの手紙



特攻で亡くなった吉田信太郎さん



滋賀師範学校で描かれた絵



吉田信太郎さんの軍服 (海軍軍帽・軍服上衣)



滋賀師範学校在学中に吉田信太郎さんが描いた絵画

水彩画「住宅風景」「鳥居と橋」、油絵「肖像画」

スケッチ画「村の風景」「水路」(八幡堀か?)

吉田信太郎さんは、水彩の風景画を中心に静物画や油絵の肖像画を遺されています。いずれの絵も穏やかな画風で、戦争や兵士をモチーフとした絵画は確認されていません。

吉田信太郎さんが自宅に遺した絵の道具

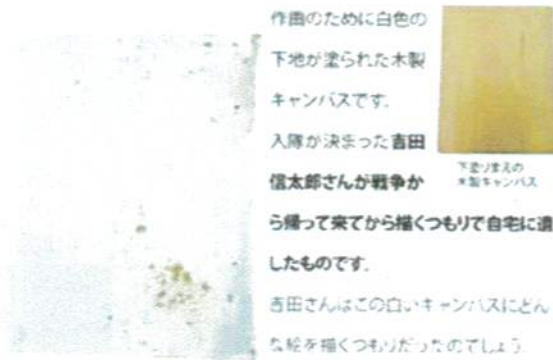
油絵用オイルの紙箱

吉田信太郎さんが「画用／油類入／信太郎用／掃宅迄／手ヲ附ザル事」と書いたもの

絵具箱、パレット・鉛筆・パレットナイフ

(絵具箱に入っていたもの)

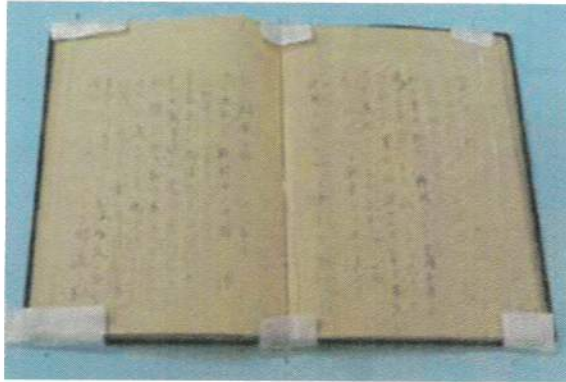
描かれなかったキャンバス



作曲のために白色の
下地が塗られた木製
キャンバスです。
入隊が決まった吉田
信太郎さんが戦争か
ら帰って来てから描くつもりで自宅に遺
したものです。
吉田さんはこの白いキャンバスにどん
な絵を描くつもりだったのでしょうか。

自宅に遺された白紙のキャンバス

作画のため、木製キャンバスに白色の下地が塗られたもの



【読み下し】
四月六日 いよいよ俺の命日と定められた。二五四五機列で、第一次機隊第二機として出撃する予定なり。
前に来た機隊は特攻として十二時出撃した。俺らは待機、突撃して出た。俺ももち古来の歌りであるが皇國前進のためにも俺もあへず進軍として出た。之れに決して俺も出る。海、陸、空、飛鳥を立派に死せてやりたい。
沖線の敵空母と体当たり多量にやる迄の武運を祈るのみである。
これが暴走たつとさうが(御面御味)どうか御身体に充分御注意下さい。私の遊つた後は私の事なんかあへず安業に気を大きくして御生活して下さい。お母もそれと習くなる様、勉強し、自分で何事もやり、立派な人となって頂きたいと思つた。いつも妹達の事を思つては寝られなかったこともあるが、私は何処で突つて貴方達の背つて行くのを見守つて居ります。戦は何年と続くとも、この尊厳なる國体は永遠に続く故、すべて死心を起さず御奉仕して下さい。
弟達はそれぞれ皇國の御為、背かれ御奉公することだらう。家を離れるものは何れ一もよすが、この吉田家の再興して祖光し願する様に御尽力して下さい。
弟達とは少しも連絡が取れなかつたが戦死するまで常に立派になることを祈つて居ります。お母のみなさんにもよろしく、おの天女にもどうぞよろしく、おいたいこと山の如くあります。が、笑つて死んでいくものには何も要りません。空を白けて身体をかりする。實に幸福だ。天壇の如く皇國の為戦ります。さようなら。

吉田信太郎さんの手帳『随想』

昭和20年4月6日(特攻のための出撃当日)の記述

2 慰問する側・受ける側

【体験談一兵器工場への慰問でもらったオニギリ一】

秋山 ひささん (神戸市)

戦争のころ、城西国民学校(現在の彦根市立城西小学校)に通っていた秋山ひささんは、いつもお腹がペコペコだったそうです。

戦争のころは食糧難(人々に食べ物が行きわたらない状態)だったから、お腹がすいて、大変でした。「ひもじいな〜(お腹すいたな〜)、ご飯をちゃんと食べたいな」と思ったものです。成長期だったので、お腹がすいて、すいてたまりませんでしたよ。

そんな中で、秋山ひささんたちは、学校から近くの兵器工場で働く人たちへの慰問(感謝とはげましのため)に行きました。

彦根の街の浜の方(琵琶湖岸)に近江絹糸の工場があつて、戦争のころは(兵士が使う)落下傘(パラシュート)を作っていたんです。それで、学校から工場へ慰問(感謝とはげまし)に行ったんです。一生懸命、落下傘つくってはる女工さん(女性作業員)のために歌を歌ったり、劇をしたりしました。その時に、オニギリをくれるわけですよ。おいしくてね。「こんなもの食べられるなんて!」と思いましたよ。戦争中ですよ。その時にオニギリをもらったということが、とっても印象的でしたね。



「おいしそうなフルーツバスケット」音羽美佐江さん作

(昭和18年前後、当時西大路国民学校5年生ころ)

【体験談—兵器工場で慰問を受けた生徒たちは…
一】 席丘 美代さん（近江八幡市）
じつは、秋山ひささんたちから兵器工場で慰問（感謝とはげまし）を受けた作業員の多くが学校の生徒でした。当時、多くの兵器工場では、勤労働員（強制的に働くことを命じられた）の生徒や、席丘美代さんのように学校のカリキュラムとして、兵器工場などの労働を強いられました。

昭和19年（1944年）に入学した近江高等女学校（現在の近江高校）では、寮生活をしながら午前中、学校行って勉強して、ほんで、お昼ごはんを食べたら作業着に替えて、工場（近江絹糸）へ行くんですよ。私たちの仕事は糸を紡ぐ（作る）仕事やった。先生から「落下傘（軍事用のパラシュート）をつくる糸や。だから頑張れ」と、言われてましたね。

寮では1つの部屋に8～10人ぐらいが寝泊りしてました。当時はハダジラミ（身体につくシラミ）がわいたんですよ。（戦争によって生活用品が不足したため）やっぱりだんだん着るものがなくなってきたから不潔になったんでしょうね。（部屋の）誰かが（シラミを）持ってたら、（衣服の）洗濯してもうつる（感染する）やないですか。しょっちゅう、寮の先生が「熱湯消毒（服をお湯に漬けて殺虫すること）せえ」といってましたけど。

工場へ慰問（感謝とはげまし）に行った秋山ひささんたち児童はお礼のおにぎりをもらって感激しましたが、慰問を受けた側の生徒の食生活は…

寮の食事は、どんぶり茶わん2つにごはんと汁もの（スープ）が入ってあるだけでしたね。ごはんも『サツマイモごはん』でした。普通の『サツマイモごはん』はごはんの中にサツマイモを切って入れてるでしょ。その反対でね、サツマイモを皮のまま炊いて、「そのふち（外側）にごはん粒がついたるなあ。」という感じなんです。『菜飯』といって混ぜごはんのようなものもありましたね。ニンジンとかダイコンとかを葉っぱも一緒くたに入れて、ごちゃごちゃに炊いたごはんでした。ほんで、おつゆ（の具）はサツマイモのツル。それでおなかがふくれるように水増ししてたんです。

はじめのころはイワシとかの魚もあったけど、肉のようなものが出た覚えはないなあ。終戦前の（食

料不足が）すごく厳しいなつた時は、ほとんど、どろどろのおかゆみみたいなゴハンに、またおんなじような、おつゆみないもんでした。そういうものが、だいたい朝も昼も夜も出てましたわ。それで、私らみんな、お茶でお腹をふくらし（空腹をまぎらわし）たんですわ。

それでもね、（午後）3時～4時ごろになるとお腹がすきますでしょう。その場合は（空腹をまぎらわす手段は）もう水しかなかったですわ。おやつを買いに行ってもどこにも売ってないし、外出許可も出ないから。

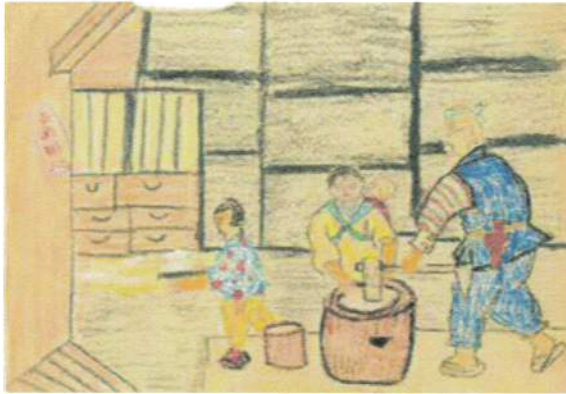


席丘美代さんたちの近江高等女学校入学式集合写真
（昭和19年（1944年）6月4日撮影）



「絵にかいたお餅つき」音羽美佐江さん作
（昭和17年ころ、当時西大路国民学校4年生ころ）

お餅つきの様子の絵をかきました。つきたてのお餅って、おいしいよね。ところで、みんなは「絵にかいた餅」という言葉を知ってる？



「絵にかいたお餅つき」(ヨコ構図) 音羽美佐江さん作
(昭和17年ころ、当時西大路国民学校4年生ころ)

目の前にも似た絵が飾ってあるね。いっぱい描いたらますますお腹が減っちゃったわ。

絵に描いたモチ

音羽美佐江さんが描いた2枚の「お餅つき」の絵は、人物の配置や着物などがそっくりです。でも、おモチを並べている部屋など、家の間取りが大きく違っていることから、これらも手本を写して描いた絵と思われる。



教科書の絵「やさい」(国民学校教科書『初等科図画三』
昭和18年2月22日、文部省発行)



「やさい」音羽美佐江さん作
(昭和18年前後、当時西大路国民学校5年生ころ)

図画の教科書にあったおいしそうな白菜とニンジンの絵を写しました。上手に描けたので先生に「優」をもらったの。がんばったから、お腹すいたな〜。

第3節 働く子どもたち(勤労働員・勤労働奉仕)

戦争が激しくなり、大勢の大人の男性が戦場へ送られた結果、日本は労働力不足におちいりました。戦争で使う兵器や食料生産のために、子どもたちが兵器工場や農地などで働くことになりました。

昭和18年(1943年)以降、国民学校高等科以上(現在の中学1年生以上)の生徒・学生は、授業も満足に受けられないなか、兵器工場などでの長時間の労働(勤労働員)を強いられました。また、国民学校初等科以下(現在の小学6年生以下)の児童も農作業など、様々な奉仕活動(勤労働奉仕)で働くことを求められました。



バナー：働く子どもたち

戦争に行った兄へ妹がおくったハガキの絵(碓本綾子さん作)

戦争が激しくなると、たくさんの大人の男性が戦争にかり出されたため、日本中が食料不足になりました。

子どもたちは、授業の代わりにグラウンドや近所の空き地を耕して、農作物を育てることを強いられました。

この絵は、香川県の詫間海軍航空隊で飛行機の操縦方法を教えていた兄の碓本守さんへ、平野国民学校(現在の天津市立平野小学校)2年生の妹さんが送ったハガキに描かれた絵です。

畑を耕し、国のために食料を育てる少女たちの姿が描かれています。

【体験談—学費を払いながら兵器工場で働いていました—】 外村 つげ子さん (東近江市)

昭和19年(1944年)7月24日、大津高等女学校(現在の県立大津高校)など県内6校の女学校の5年生(現在の高校2年生)600人が名古屋市笠寺(名古屋市南区)の航空機などを造る兵器工場へ送られ、働くことを強いられました。当時、愛知高等女学校5年生(現在の県立愛知高校2年生)だった外村つげ子さんもその一人でした。

5年生になると勉強なんてほとんどしてないねん。5月は1ヶ月間、看護実習でした。看護婦さんが足らんさかいに、女学校へ行かんと豊郷病院まで毎日通ってましたわ。6月はちょいちょい、民間の奉仕作業(戦争のためのボランティア活動)に行っ、その後の7月から愛知川(愛知高等女学校)の5年生が全部、名古屋の工場(岡本航空機工業株式会社)へ行きましたんやわ。

みんな、寮へ入ってな。(そこでの暮らしは)軍隊調でしたさかい、朝出勤するのでも「頭右!歩調取れ!」って、(号令で)工場まで(隊列を)組んで、行進で行ったんです。最初のころは昼勤(朝から夕方までの労働)だけでしたけど、2~3ヶ月あとから、夜勤(夜間勤務)に出る者と昼勤(日中勤務)になる者が分かれて(交代で)働いたんですわ。それで昼勤の時だけ、工場から帰って来て、夕飯前か後に1時間だけ、学校の勉強をしました。

仕事は飛行機の脚部の部品の穴あけでした。2人が組みになって、ドリルでジュラルミン(アルミニウム合金)の板に穴を開けてたんです。私は小さかったさかい、大きな機械にぶら下がって(機械を操作して)穴を開けてたんですけど、ちょっとでも機械が「プルプルッ」と振るうたらもう大きな穴になるさかい、あかんのや。初めのころはおしゃか(失敗品)ばかり出してました。千分の一ミリでも狂ったら、飛行機やから危ないですわな(故障や事故の原因になりますよね)。それで係長に怒られましたわ。

先生は「こんなこと(学生が勉強もしないで働くこと)はあかん(ダメな)ことやけども、この体験は、これからあんたらが母親になって生きていく上での大切な人生の経験になるやろ」って、おっしゃ

ってました。それで、みんな(学校への)月謝(毎月の学費を)納めながら働きに行っていましたんや。



【内容の訳文】

九月十八日

大東亞戦争(大東亞戦争)もますます激しくなってきました。私たちは一機でも多く飛行機を、一機でも多く軍艦を作り出して戦場へ送り、この戦争に勝たなければなりません。

今日は高等女学校の代表と男子生徒の代表が先軍たちが戦争に勝つために、学徒動員(三校の子どもの選別)されることになりました。瀬田橋本(現在の津市)の松下金属株式会社へ働きに行くことになっていましたが、今日から行くことになり、学校で社行式が開かれました。

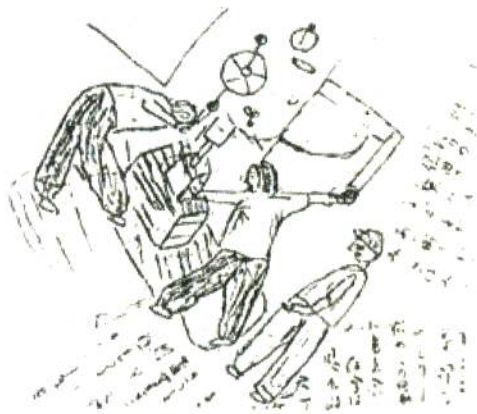
社行式では、働きに行かれる先軍たちが嬉しそうな顔をして集まって来ました。社行式では高等科の生徒の代表と六年生の代表が大審上手にあいよつをされました。

その後、私たちは先軍たちを見送りました。みなさんは瀬田国民学校旗を先頭に、元氣よく足並みをそろえて行進し、敬礼されました。男子生徒は足に兵士のようなゲートルを巻き、女子生徒も涙に鈍感を締めていました。見送るみんなも、「二年(1943年)の二年生、ばんざーいばんざーい」と、先軍たちを見送りました。

その後、九月二十日の「航空日」に、飛行機を飛ばすため、その騒音を一生懸命にがんばりました。

学級日誌 9月18日「高等科学徒動員」

(『瀬田国民学校五年智組 学級日誌』(昭和19年)九月十八日)



「兵器工場で働く外村つげ子さんたち」昭和19・20年（1944年・1945年）作画

（文集『仁礼 四十年誌、滋賀県立愛知高等女学校昭和20年卒業』昭和60年8月、仁礼会発行より引用）

外村つげさんがすごいの！体が小さいから、兵器工場でドリル機械のレバーにぶら下がって、上手に金属の板に正確な大きさの穴を開けていたのよ。絵の真ん中の女の子が外村つげ子さんです。



「外村つげ子さんたちが兵器工場で食べた食事」

（文集『仁礼 四十年誌、滋賀県立愛知高等女学校昭和20年卒業』昭和60年8月、仁礼会発行より引用）

外村つげ子さんたちが兵器工場で食べた食事

主食（おもに「豆ごはん」）

みんなの給食に出てくる「豆ごはん」とは、一味ちがうよ！「まめ」は豆でも、ママ油のしほりカスを少しのお米と炊いたごはん！外村さんの村では戦争前まで、豆カスは牛や馬のエサでした。それに、空襲のあと臭いウムのしみ込んだクワイお米が使われたんだ。だから、お嬢さん育ちの友だちは、豆ごはんを食べてお顔をこわしたそうです。

岡本ドロン

豆カスや小麦粉で作ったカレー状のドロツとしたスープです。たまに馬肉のようなものが入っていることもありましたが、それを「豆ごはん」にかけて食べたそうです。

【体験談一銃の代わりに鋏を持たされましたけど……】

青木 安司さん（栗東市）

昭和18年（1943年）、金勝国民学校（現在の栗東市立金勝小学校）の高等科を卒業した青木安司さん（当時13才）は、食料生産のために作られた食糧増産隊滋賀県大隊（隊長は滋賀県知事）に入隊されました。

当時は戦時体制でね。みんな「お国のために」といって、軍需工場（兵器などの工場）へ動員され（働くために強制的に送られ）たり、（兵士として）戦地に行ったりしてる時代でした。ところが農家の長男だけは、（家の田畑で食料を生産させるため）除外されとったんです。それで、（動員や召集されずに）家にいることが、「何か肩身が狭いような雰囲気」になってました。そしたら今度は、農家の長男を食糧増産隊に召集し（強制的に入隊させ）ようという法律ができたんです。役場の係の人が「行かへんか」と言うてくれたんで、入隊しました。

食料増産隊に入隊した青木安司さんは、饗庭野陸軍演習場での約3ヶ月間の訓練の後、滋賀県各地での開墾や干拓などの現場へ送られました。

「君たちは、銃は持てないけれども、銃の代わりに鋏を持って食糧増産にはげむんや」といわれて、各地の開墾（荒地を田畑に作り替える作業）や農業用水路の改修なんかをしてましたね。そして、能登川の小学校の講堂に泊まって、オランダの捕虜の兵隊さんと一緒に大中の湖の干拓（湖を田畑にする工事）の仕事しました。

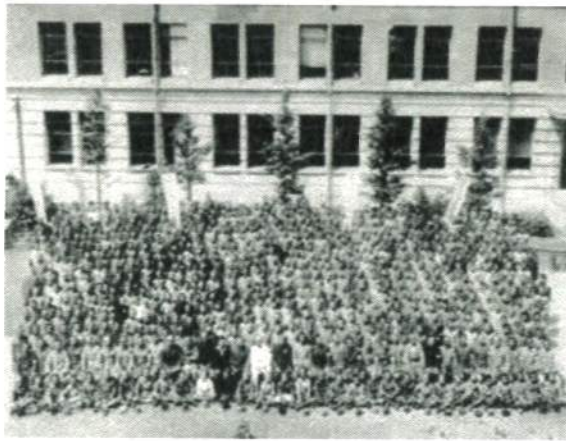
普通、敵側に捕まった捕虜いうたら、しょげ返ってる（気を落としている）と思うんやけど、オランダ兵はね、愉快にしとんですよ。ほんで、「もうじき日本は負けますよ。僕らは戦勝国になりますよ」って、歌でも歌いそうな感じでゆかいそうに仕事しとったんです。僕らは「何をぬかすかつ」て、怒ってたんや。まあ、実際そうなりましたけど。

昭和20年（1945年）の終戦が近づいたころ、青木安司さんたちの部隊は比叡山中の寺院（安楽律院）へ送られました。

今度は、山の中で鋏を銃に持ち替えてですわ。でも、銃がないから竹ヤリで軍事教練でした。「君らは、今、銃の代わりに鋏を持って一生懸命やってるけれ

ど、敵が上陸してきたら、君ら一人で戦車一台を爆破するんや」と、いわゆる特攻訓練（体当たりの自爆攻撃の訓練）ですな。爆弾を抱えて、戦車の下へ飛び込むその訓練をやりました。山で木のカゲに隠れとって、「戦車来たぞーっ、そこへ飛び込めっ」「バンッ！」ってな訓練でした。

でも、食べるもん（日々の食事）は良かったんです。それまでは、とにかくおなかがすいて、食事もどんぶり茶碗のごはんを取り合っていましたけど、比叡山中では、家では食べられないごちそうを食べた。軍隊がね、缶詰やら何やら、食料をね、隠しといたんですよ。その一部を「おまえらにもやるわ」と、くれたんです。



食糧増産隊 記念写真(昭和18年か19年 滋賀県庁にて撮影)



学校での農作業



学校の授業の線体操

第3章 戦争にまき込まれた子どもたち

—空襲と避難—



パナー：空襲を受けた時の練習（防空訓練）の絵

昭和19年秋以降、米軍の飛行機による国内への攻撃（空襲）が激しくなりました。学校でも空襲時の訓練（防空訓練）が盛んにおこなわれました。訓練は、絵の題名『私たちの待避』のとおり、安全な場所へ逃げる練習ではなく、攻撃が終わった後すぐに、子どもたちにも消火活動をさせるためのものでした。

この絵は、昭和19年（1944年）12月に膳所国民学校（現在の大津市立膳所小学校）6年生の女子児童が明治航空隊（愛知県）の吉田信太郎さんへ送ったはげましと感謝の手紙（慰問の手紙）に描いた絵です。防空頭巾をかぶり、バケツを手に持って待避のための穴（防空壕）へ急ぐ子どもたちの姿が描かれています。

第1節 米軍機による攻撃(空襲)と子どもたち

戦争のころの学校では、子どもたちに敵の飛行機から攻撃された時の対処法を教えました。その多くは爆弾による火災を消す訓練など、自分の身を守るために役立たないものでした。また、学校や多くの住宅には、空襲時に身を隠すための防空壕(地下・半地下のシェルター)が作られました。その多くは地面を浅く掘って、その上に板や畳などを置き、土を被せただけの簡易なものでした。そのため、防空壕に逃げ込んだ多くの人びとが爆風や火災・けむりなどによって、その中で亡くなりました。

滋賀県内では、都市を焼き尽くす焼夷弾による計画的な空襲は行われませんでした。陸軍八日市飛行場や大津海軍航空隊などの基地や周辺の兵器工場を標的とした空母艦載機による空襲や、大津市石山の東洋レーヨン滋賀工場への原爆の投下訓練、学校などへの誤爆などによって、50人以上の人が亡くなり、180人以上の人が負傷しました。自宅周辺で空襲に巻き込まれて、亡くなった子どもたちもいます。また、県内の学校から名古屋などの兵器工場へ働きに行くことを強いられた生徒たちにも空襲の犠牲者が出ました。

【体験談—訓練どおりに防空壕に避難したら……】

高瀬 昇一郎さん(近江八幡市)

昭和20年(1945年)7月、食糧増産隊員の高瀬昇一郎さんたちは安土国民学校(現在の近江八幡市立安土小学校)の講堂に寝泊まりしながら、弁天島内湖(現在の近江八幡市安土町下豊浦の福島弁財天周辺)の干拓工事や農作業を行っていました。その日、たまたま自宅に帰っていた高瀬さんが次の日に友人から聞いた話です。

そのころ、(部隊は)弁天さんの水が引いた所(弁天島内湖の干拓で陸化した農地)へサツマイモ植える作業をしてたんや。それで、安土国民学校の講堂で泊まってた。(7月24日朝の米軍艦載機による安土駅停車中の機関車への空襲があった日は)家に帰ってたんやけど、翌日、(部隊の友人から)聞いたんや。

今の校舎が建ってる所やと思うけど、学校の運動

場に防空壕(飛行機からの攻撃を受けた時に児童たちが隠れるためのシェルター)があったんや。(近くの安土駅が空襲されたため、隊員)みんながそこへ避難しよったんやわ。20~30人いたやろな。そしたらかわいそうに酸欠でやられよってん(意識を失った)。防空壕は穴を掘って、木を渡した天井に泥被せた(土で覆っただけの)狭い場所やさかい。空気抜けへん(換気がない)やんか。それで出すのに往生しよったんやわ(倒れた隊員を救出するのに大変やった)。(防空壕の中は)酸欠で、苦しい、苦しいさかい。翌日、「昨日は(意識を失った隊員を防空壕から)引きずり出さんならんで、えらい目にあった。」って、言うとったわ。幸い、死者がなくて良かったけどな。



【内容の訳文】

二月十五日

なんだか日が少し長くなってきたような気がする。私たちは(昨日)航弾と戦争をしています。この戦争はどうしても勝ち抜かなければならないのです。国語の授業で習った平政盛の最終のように(先立ちはいささよとまれい)と書いています。いつ爆弾が落ちてきて死ぬことになるかも知れないから。今日は、授業で算数を習いました。掃除の時間は寒かったけど、がんばりました。四時間目に(敵機の接近を知らせる)警戒警報が発令されました。その三分後には、空襲警報が発令されたので、みんなすぐに帰宅しました。大空にはたくさん(敵機が降した)いく筋もの飛行機雲が浮かんでいました。

学級日誌 2月15日「4時間目に空襲警報発令 大空にはたくさんすじがついた」

(『瀬田国民学校五年智組 学級日誌』「昭和20年)二月十五日」)



空襲と人びとの備え

標語「防空防火」昭和14年（1939年）

布製バケツ 現在の近江八幡市にあった北里村で使用されたもの

布製バケツ 「開智」「五警」と書かれたもの

防火用バケツ 「火用水専用」と書かれたもの

小型リュック型カバン、防空用砂袋、消火弾

米軍機が滋賀県への空襲に使用したモノ

米軍機から発射された爆弾・銃弾 昭和20年7月30日、守山駅周辺で米軍機が攻撃に使用したもの

八日市飛行場跡で拾われた機銃弾の薬莖 飛行場への空襲に米軍が使用したものと思われる

八日市飛行場に投下された米軍の爆弾片 戦後、八日市飛行場跡で拾われた鉄片です。円筒形だったものが大きく変形していることや、「30K」とペンキで記されていることから、米軍機が投下した爆弾の破片と考えられます。



防空頭巾

空襲の時に火災や飛んでくるものから頭部を守るために使われた帽子です。あなたは、これで爆弾から身を守れますか？

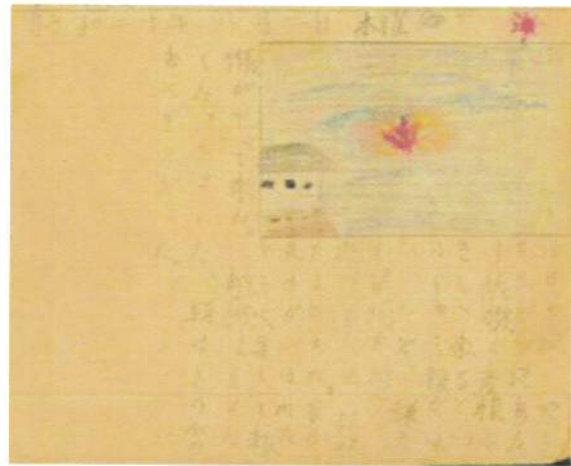
【体験談一『空襲』 本当にもう戦場そのものでしたわー】 外村 つげ子さん（東近江市）
愛知高等女学校5年生（現在の県立愛知高校2年生）
 の外村つげ子さんたちは、米軍機の標的となった名古屋の兵器工場で働いていました。

昭和19年（1944年）12月ころから、空襲はようありました。それに12月7日には「ワーッ」と工場が揺れましたんよ。「空襲や」と思ったら、地震（昭和東南海地震）でした。工場で働いていた男子学徒が亡くなったんです。翌日も爆撃があつて、たくさんやられました。それから1週間ほど経って、爆弾が落ちた隣の工場との合同葬がありましたんや。30人ほどの犠牲者で、遺族が泣いておられたのがね、今でも目に浮かびますわ。

昭和20年（1945年）に入ると、空襲ばかりでしたね。ほんで、一晚（ゆっくり）寝れたことなかったんです。毎晩、2回も3回も空襲警報が鳴りますさかい、みんな、もう「着の身、着のまま」で寝てましたんや。そんで、（枕元に）防空かばん（非常持ち出し用のカバン）や（防空）頭巾を置いて、「さあ空襲や」となったら、「パーッ」と（すぐに）出られるようにしてました。本当、「靴下脱いでゆっくり寝てみたい」て、思っていましたわ。初めのころは（空襲警報のたびに）防空壕に入っていましたけど、毎晩の空襲で、しまいにはもう慣れてしもうて、（防空壕へ向かって）階段下りるときに、（爆撃地の）近くやと「パラパラパーッ」と火花が落ちるのが窓から見えるんですわ。花火みたいで「美しな」て、いってましたね。

工場がやられて（空襲を受けた）から、各学校で10名ずつの救護班（ケガ人などの救護にあたる係員）が決められていました。（空襲を受けると）「工場がやられたさかいに、救護班出て来い」ということで、担架を担いでました。（工場の中は爆撃によって）灰だらけの中で（灰や煙が充満する中）真っ白けの、真っ黒けで、「（人）手が欲しい」「足が痛い」て、（それぞれが）言わはりますやろ。それを担いで（負傷者を担架に乗せて運んでいると）担架の下から、何やら知らんけど、ヒモみたいなものが「ぶらぶらぶらっ」とぶら下がってましたんや。それは（負傷者の）腸やったんどすねん。重傷者はこちら、軽傷者

はこちら、死体はこちらって（運んでました）。そして、「死体にはコモ（ワラの敷物）かぶせて」って、そんな時代でした。ほんともう戦場そのものでしたわ。



八月二日 木曜日 晴れ
 昨日の晩、家本先生が「今夜、敵機が彦根付近に来るという知らせがあつた」と、話されたので、（空襲を受けた際に）逃げるため、荷物をまとめておいた。
 家本先生が言ったとおり、敵の飛行機が飛来して、すぐに飛びさつていった。
 朝（ごはん）は昨日のおにぎりだった。

絵日記（昭和20年）8月2日「敵機が彦根付近にやつて来た」
 （坂本正邦さん作（当時、西甲良国民学校（現在の甲良町立甲良西小学校）5年生）

昭和19年（1944年）に、御津国民学校（現在の大阪市立南小学校）のみんなと甲良へ集団学童疎開してきました。先生が話されたとおり、敵の飛行機が飛んできました。

【体験談一爆風で落ちた土壁の土ボコリのなかで家族は…】 吉田 武司さん（東近江市）
 三重県で暮らしていた吉田さん一家は、父親が軍隊へ入隊することとなったため、家族5人（武司さんと母親、姉の芳枝さん、兄の義信さん、生まれたばかりの妹）で御園村（現在の東近江市御園町）へ疎開してきました。

父親が兵隊に行った時、「とにかく伊勢におつたら太平洋から（米軍の）兵隊が来てみな殺されるさかい、引っ越したほうがええ」ということで、「父親の

実家の方が田舎やさかいに安全やろう」と、八日市へ疎開してきたんですよ。そしたら運悪く、近くに飛行場があったんや。

昭和20年(1945年)7月24日の早朝、紀伊半島沖に停泊中の米軍空母ハンコックから12機の艦載機が陸軍八日市飛行場へ向けて飛び立ちました。

(1年生の)僕は小さかったで、覚えてないんやけど、姉の話では「兄弟3人みんな学校へ行った」と、(学校に着いて)すぐ、空襲警報が鳴ったで「近くのものば帰れ。家が遠い人は、防空壕に入れ」と言われて、家に帰ってきたそうや。それから空襲が始まってね。ここに4ヶ所ほど爆弾が落ちたんやわ。飛行機が道で立ち話をしてはった青年団の人たちをみつけて、はじめに機銃掃射で「バツバツバーン」と(攻撃して)来よったんやわ。

当時はね。裏の家との間に防空壕もあったんや。でも、防空壕に入っていたら死んでたんやわ。そこに爆弾落ちて、破裂したんや。(幼い)妹を背負った母親と姉と兄貴と私と4人が庭で布団かぶってたんやけど、僕が覚えているのは、空襲の爆風で壁が全部「バンバンバンバンバーン」と落ちてしもうて。昼間やけど、もうもうと(土ボコリが舞って)あの壁のくさい匂い。いまだに忘れへんのや。壁の落ちたにおい。

ほんで、モウモウとした中、路地から青年団の人が「誰かおるかー。どうもないのかー」と、助けに来てくれはった。近所の人たちが僕を引っ張り出してくれたのを覚えてんねん。痛うて、痛うて、何気なしに自分の横っ腹にふれたらな。(爆弾の破片が腹部に刺さっていたので)手に血がついたんやわ。リヤカーに乗せられて、陸軍病院(現在の東近江総合医療センター)にガタガタ道を行ったのを覚えてます。

兄貴は腸やらも飛び出てて、手のつくしようもなかったんや。病院で簡単な手当だけしてもらって、母親に抱かれながら亡くなったんや。姉は(頭部に)細かい破片が刺さって、耳の裏の眼の線やられてね。あっちこち医者に行ったけど、目が見えへんようになったんや。

僕も1年あまり、医者に通ったけど、傷が痛うて、痛うて、それから治りかけたらウミが出て、痛かゆ

い、痛がゆい。子どもやから、かくわな。それで余計、血やウミが出て、痛うて、痛うてどうにもならんかった。それと、空襲のあの爆風と壁の落ちた時のおいがいまだに忘れられん。



吉田武司さんのご親族の集合写真

(前列左から2人目が兄の義信さん、3人目が姉の芳江さん、その後ろでお母さんに抱っこされているのが武司さん)



長浜を空襲した米軍機

昭和20年8月6日、中島孝治さん(当時16歳ころ)が撮影

第2節 集団学童疎開

戦争末期になると、日本本土が米軍機の激しい攻撃（空襲）にさらされました。昭和19年（1944年）6月、大都市の児童を空襲から守るため、東京や大阪などの子どもたちを地方へ集団で避難（集団学童疎開）させることが決まりました。

8月末以降、滋賀県各地に大阪市から1万人以上の子どもたちが学校やクラス単位で疎開してきました。半ば強制的に受入れを割り振られた地域では、学校の教室や寺院、集会所などを寄宿寮として提供することになりました。また、多くの地域では、住民による食料の差し入れや入浴場所の提供など、親と離れて暮らすこととなった子どもたちへの支援が行われました。そうした滋賀県の人びとの温かい支援もありましたが、多くの疎開児童は戦争中の厳しい食料事情・物不足のなか、空腹にさいなまれながら、不衛生な環境での暮らしを強いられました。

そうした子どもたちの滋賀県での疎開生活は、大阪市が空襲で大きな被害を受けたこともあり、多くの学校で終戦の後も、昭和20年（1945年）10月ごろまで続きました。

楯野 正雄さんが描いた『疎開帳』

『疎開帳』は、集団学童疎開で滋賀県へ避難された楯野正雄さんが当時、日々の暮らしや地域の風景などを絵や文章で記録したノートです。

当時、精華国民学校（戦後の学校統合により、現在は大阪市立両小学校）の4年生だった楯野正雄さんは、クラスの他の男子児童とともに、昭和19年（1944年）8月31日から滋賀県豊国村東円堂（現在の愛荘町東円堂）の信光寺で寄宿生活を始めました。その後、昭和20年（1945年）3月31日に小倉寮（東近江市小倉町）への転居をへて、10月に大阪へ戻られました。

楯野さんが疎開中にかいた『疎開帳』には、疎開中の生活や、友だちとの遊び、授業風景、学校や周辺の風景などのスケッチとともに、寄宿寮の建物間取り図や周辺の地図などの絵が、子どもらしいタッチながら極めて正確に描かれており、子どもたちの暮らしとともに、当時の想いを垣間見ることができます。

楯野正雄さんが描いた『疎開帳』



【内容の訳文】
この飛行機はアメリカで最も優秀な重爆撃機で、僕が疎開に来る二ヶ月ほど前から北九州に飛んで来て、町を攻撃していました。本州を攻撃し始めたのは昨年（昭和十九年）の十二月ごろからです。空に飛行機雲を引いて飛んで来ていました。（昭和二十年）三月十三日の午後十一時ごろから三時間ほどの間に僕らの家（大阪市の自宅）を焼夷弾で焼きました。七月十九日の夜には、和歌山市や堺市を焼失させました。この時に再び、僕の家を焼きました。大変、憎いですが今さら何を言ってもあきません。疎開してからは、敗戦の日が近づくにしたがって、この飛行機は低く飛んできました。終戦後は、たまたみ一攫ほどの大きさに見えるほど（B-29を）飛んで来ました。本当に憎い飛行機です。

楯野正雄さんが描いた『疎開帳』「B29」（戦争が終った）
昭和20年10月1日に絵と文章を書きました。）

疎開児童が過ごした小倉寮

楯野さんたちが昭和20年（1945年）4月から約半年間暮らしした小倉寮の建物正面スケッチと間取り図です。

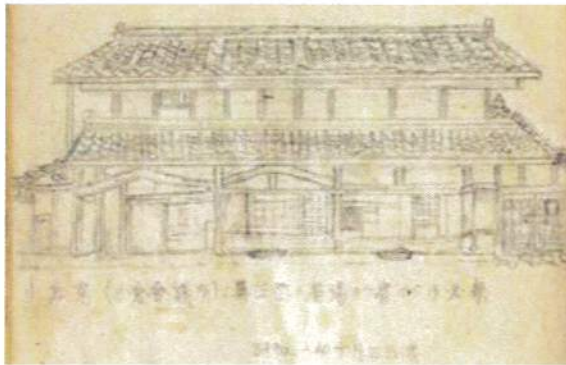
寄宿寮は、廃寺のお堂を地域の集会所として使っていた古い建物でした。疎開帳の絵から、子どもたち15名は、広間などの三つ部屋（たぶん27畳ほどのスペース）で寝起きや授業や食事などを寝具や机を移動しながら生活していたことが分かります。また、先生も奥の部屋ほどの小部屋で生活していたようです。

なお、小倉寮のあった場所は現在、小倉公園となっています。



小倉寮平面図（疎開帳の図を参考に作成）

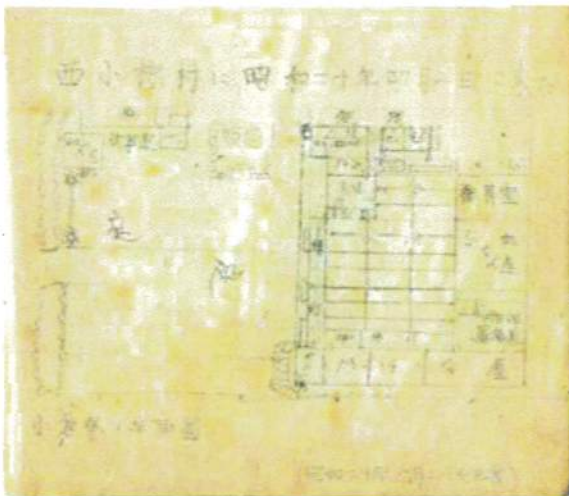
疎開児童が過ごした小倉寮



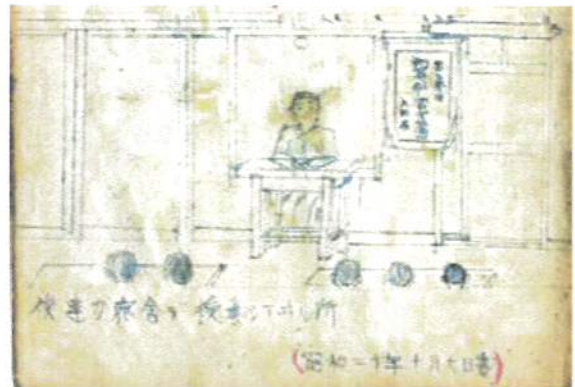
「小倉寮（小倉会館跡）」（楯野正雄さんの『疎開帳』より）
（真正面の広場から書いた小倉寮・昭和20年10月3日作画）



疎開児童が過ごした小倉寮跡（小倉公民館）
建物の前の駐車スペースが、子どもたちが野球や体操をしていた広場でした。



「西小椋村に昭和20年4月1日に来た 小倉寮の平面図」
（楯野正雄さんの『疎開帳』より、昭和20年10月27日作画）



「僕たちが宿舎で授業しているところ」（楯野正雄さんが描いた『疎開帳』より、昭和20年10月7日作画）
小倉寮での授業風景です。習字の時間のようなですね。



「いつも出してある机の上で何かを書いている友だち」（楯野正雄さんが描いた『疎開帳』より、昭和20年10月6日作画）
小倉寮での疎開児童の日常風景です。
絵の中央に座って、机で何か書いている青い服の子どもは『信光寺で疎開生活を過ごした人たちの想い』のパネルで体験談を紹介した毛受吉彦さんです。



「楽しい食事」（楯野正雄さんが描いた『疎開帳』より、昭和20年10月18日作画）
小倉寮での食事の時間です。みんなが食事の前に手を合わせて「いただきます」で、いってますね。でも、机の上には、各自のお箸と茶わん1つだけです。今日もおかずがなくて、お腹いっぱいにならなかったのかな？



「僕たちが前の広場で良くやった野球」(楯野正雄さんが描いた『疎開帳』より、昭和20年10月6日作画)



「小倉寮から見て真正面にある村の家」(楯野正雄さんが描いた『疎開帳』より、昭和20年9月28日作画)

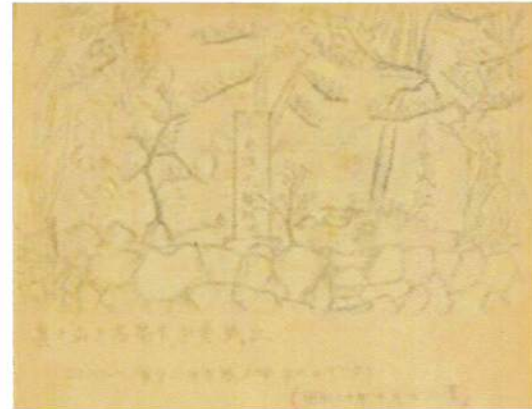


「僕たちの就寝」(楯野正雄さんが描いた『疎開帳』より、昭和20年10月19日作画)

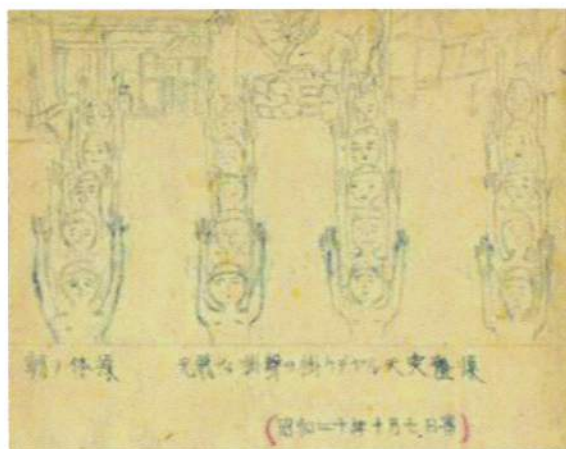
小倉寮でのおやすみの時間です。広間の奥にあるふとん部屋からふとんを出してきて、自分で敷いて眠りました。授業や食事使った机は玄関ヨコの部屋に積んでかたづけましたね。



小倉寮跡から見て真正面にある村の家 (楯野正雄さんの絵に描かれた2階建ての土蔵が現存しています。)



「裏の山の名高い小倉城跡 この辺へ僕らはよく木の葉かきに行った」(楯野正雄さんが描いた『疎開帳』より、昭和20年10月7日作画)



「朝の体操 元気の掛け声をかけてやる天つく体操」(楯野正雄さんが描いた『疎開帳』より、昭和20年10月7日作画)



小倉寮の裏山にある小倉城跡 (石碑や下の段の石垣が楯野正雄さんの絵に描かれています。)



信光寺で疎開児童が使った机



疎開関係資料

集団疎開関係書類綴り

大宝国民学校の疎開児童名簿「集団疎開児童名簿」

手紙に添えられた習字「野原若草子馬」

池島好子さんがお父さんに送った手紙に同封されていたもの

紙で作られた食器

信光寺寮のかんぱん「大阪市立精華国民学校信光寺寮」

学童疎開で使用されたもの



食器皿

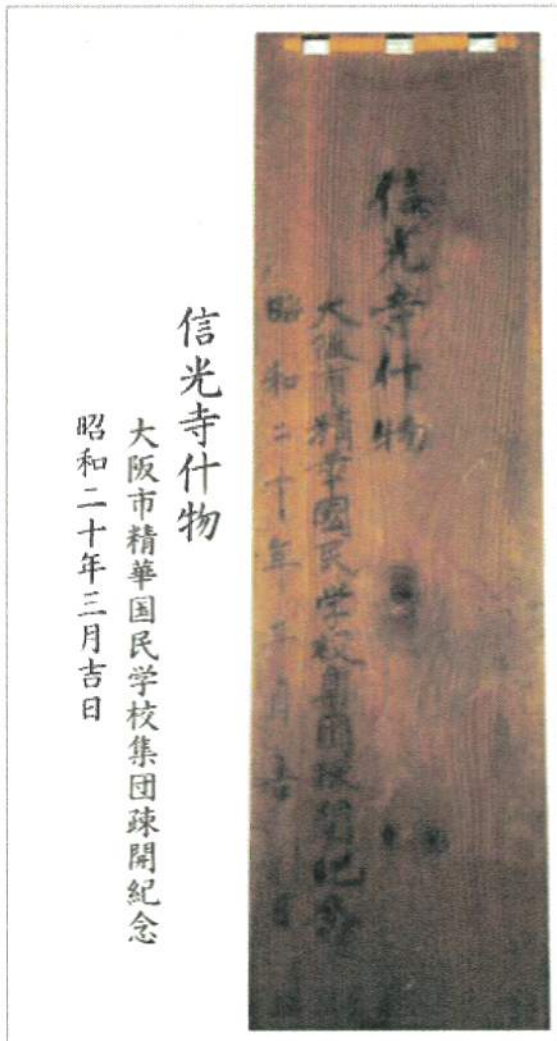
久宝国民学校の疎開児童の親が我が子のために疎開先に届けた皿です。

戦時中、近江八幡にある真成寺は、大阪市から疎開してきた久宝国民学校の児童を受け入れていました。当時、大量の食器がなかったため、紙製の食器を使っていたところ、子供の親が「子供が可哀そうや」といって、この皿を持ってきたそうです。



手作りのマス 久宝国民学校が疎開先で使用したもの。

「久宝校」の焼き印が押されている。



信光寺什物
 大阪市精華国民学校集団疎開記念
 昭和二十年三月吉日

信光寺で疎開児童が使った机の墨書

信光寺で楯野正雄さんたち大阪市立精華国民学校の児童が使っていた机です。

机の裏側には「信光寺什物 大阪市精華国民学校集団疎開記念 昭和二十年三月吉日」と墨書されています。子どもたちの疎開先が変更となり、信光寺から転居する際に記念として記したものと考えられます。

【体験談—ひどい生活に耐えかねて、児童みんなが不登校ですわー】 樋口 良次さん（吹田市）
久宝国民学校（現在の大阪府中央区にあった学校）の6年生だった樋口良次さんは昭和19年（1944年）8月31日、集団学童疎開（学校単位での空襲からの避難）で近江八幡に避難することになりました。

私の学校では、3年から6年までの306名が近江八幡に集団疎開したんです。八幡国民学校（現在の近江八幡市立八幡小学校）で地元の人（児童）とは別に、久宝国民学校の先生が教えてくれました。我々は中央公会堂を寮にしてもらって、寝泊りしたんです。今もその建物が近江八幡ユースホステル（近江八幡市円山町）に移築されてのこっていますわ。我々はその2階で寝泊りしてたんです。

（疎開中に）地元の人にとってもよくしてもらったという人もいますけども、近江八幡はね、ほんまに（本当に）食べもん（食料）がなかったんですよ。サツマイモのツルをゆがいて食べたり。年明けて（昭和20年冬）からは、もう重湯みたいな（薄いスープ状の）おかゆさんでね。米粒、勘定せんと分からんぐらいのもの（探さないと見つからないぐらい少量の米粒）でしたわ。それをベークライト（樹脂製）の食器で食べてたんですけど、その食器は冬の寒さでひび割れしてて、そこへ重湯を入れると、こぼれますわね。それにもものすごくクサイんですわ。匂いがくさいんですけど、そのクサイ食器で（薄いおかゆを）すすりもって（すするように食べながら）生活してたんです。食糧難（食べ物不足）にあえいでましたわ。

疎開児童の中で、おやつ代わりに消化薬「わかもと」を食べて、空腹をしのごことが流行りました。それが禁止されると、親に手紙を書いて、「わかもと」を送ってもらおう子どもが現れました。

（疎開中は）親にみんな手紙を書いて出したんですけどね。学校の先生がね、全部検閲（手紙の内容チェックを）するんですよ。出す前に全部、封を開けて。で、「そんなこと書いたらいかん」いうて、破って捨ててしまうんですわ。親から来る手紙もね、全部破って捨てられましてね。電話なんかもちろんないですから、まったく音信不通（親と連絡がつかない）状態でした。

それと、寒いのに閉口し（こまり）ました。やっぱり大阪では冬でも、極端に寒いことないですよ、でも、「八幡は寒いなあ」ということをね、つくづく痛感しましたわ。雪が溶けずにずうっ〜と、残ってましたから。「もう雪見るの嫌やな」とって、思ったぐらいです。

寒いのとね、シラミとね、ひもじいのと、それから寂しさも含めまして、（児童）みんな学校へ行くのがもう嫌になって、みんな不登校ですわ。もうみんな、「やってられん」ということでね、先生困らしたこともあるんです。



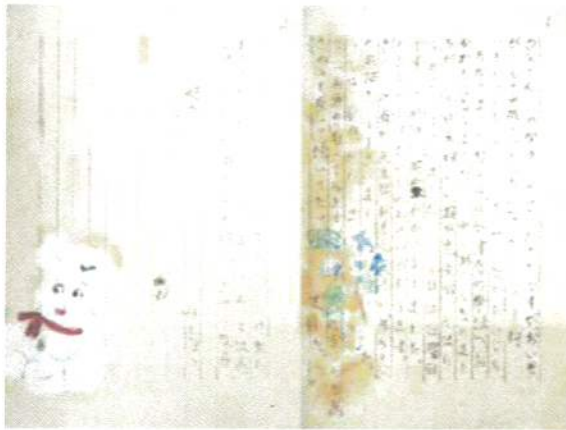
国民学校4年生のころの樋口良次さんとお姉さん



疎開に使用された旧中央公会堂の建物
（現在の近江八幡ユースホステル）



『わかもと』の広告



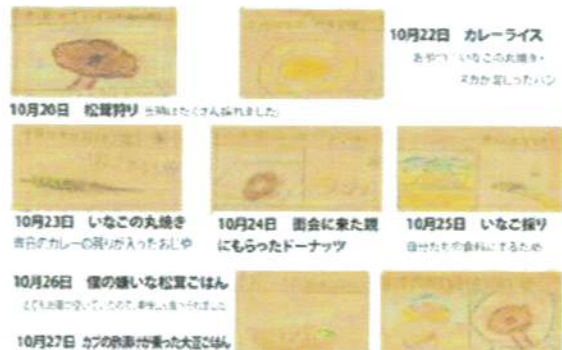
【内容の訳文】

お父さん、この間、(主会)に来てくれたのに、忙しかったので、(私)に会えないうちに訪問ができてしま、(大阪)へ帰られたそうですね。
 (おみやげに)お豆のおやつを持って来てくれてありがとう。談開中のみんなで美味しく頂きました。
 松田先生が、(大阪)市(浜寺)の学校へ転勤になりました。少しさびしくなりましたが、今日、大宝国民学校の本校から瀬戸先生が代わりの先生として赴任されました。

【内容の訳文】

お兄さん 今日、お手紙が届きました。とても喜んで読みました。従考ちゃんの絵もとっても上手でした。お兄さんも毎日、工場へ通って(働)いている、そうですね。(私も)日本が勝つまでは頑張ります。ではまた、お身体を大切にさようなら。
 大好きな
 お兄さんへ
 瀬戸

多賀青年学校へ疎開中の池島好子さんからお兄さん(池島遷さん)へのハガキ(昭和20年8月3日(消印))



「1週間の食事やおやつ」(甲良町へ集団学童疎開した坂本正邦さんの『絵日記』、昭和19年10月作画)



坂本正邦さんが疎開時に描いた『絵日記』

今日は日曜日です。十時ごろ、戦死した兵士を地域でお出迎える行事に参加しました。お昼からはおイモのおやつがもらえます。
 昨日は青野先生が「国ちゃん」というお話をしてくれておもしろかったです。
 (道徳の)川では、疎開児童のみんなが楽しくうにお魚を取っています。昨日も取った魚を焼いて食べました。大変美味しかったです。
 今度、お父さんが面会に来た時には、ゆっくってお話をしましょうね。ではまた、お便り下さいね。御身体を大切に、さようなら。
 大好きなお父さんへ
 瀬戸
 好子より

多賀青年学校(戦後は廃止)へ疎開中の池島好子さん(当時、国民学校4年生)からお父さんへの手紙(昭和20年7月31日(消印))

昭和19年(1944年)10月に、大宝国民学校(現在の大阪市立南小学校)のみんなと多賀へ集団学童疎開してきました。先日、お父さんが面会に来たけど会えなかったのよ。とても悲しかったけど、手紙には「さびしい」とか、「家に帰りたい」って、書いちゃだめなの・・・先生が手紙をチェックするから・・・。

【体験談—疎開児童を受け入れたお寺では—】

木津 龍尊さん（愛荘町）

当時、滋賀県への集団学童疎開を体験された多くの人たちは、食事面や衛生面・住居など劣悪な状況下での生活であったと話されています。一方、児童を受け入れた人たちはどういった状況だったのでしょうか。

昭和19年（1944年）8月31日、信光寺の住職だった木津龍尊さんは、大阪市立精華国民学校の疎開児童男子35名を預かることとなりました。

その時分はもう、めちゃくちゃでしたからね。なんか（夏ごろに）大阪の視察の人が来られて、（疎開）計画を村役場へいっただけ言って、帰っていったんです。相談とかもございませんでした。村役場から「（疎開児童受け入れのために本堂などを）貸してやって下さい」と、ほとんど命令でした。そして、8月31日に4年生108人が来られて、豊国国民学校（現在の愛知川東小学校）の教室や私のところとお隣の寺に分かれて寝起きすることになったんです。ほらもう、ほんとに困りました。

計画では、疎開児童の授業や食事は学校で行うことになっていましたが…

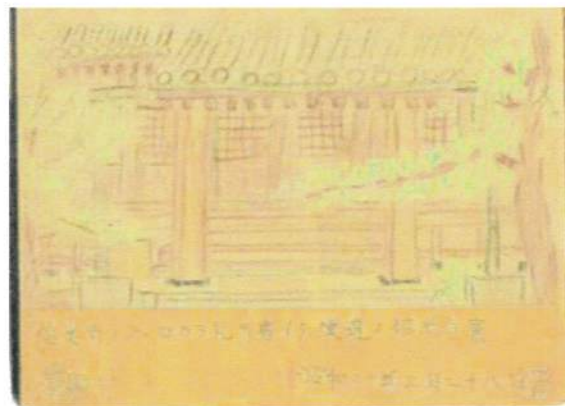
とりあえずは、ここ（本堂）で寝起きができるようにだけはしてあったんですけどね。学校での食事は3交代で食べてたらしいんです。雨の日にも学校に行かんならんしね。時間もかかるし、「不便や」ということで、「私とこの台所で（児童35名の食事を）炊かしてくれ」と、いうことになりました。

1か月半ほどは学校の空いた教室で授業してたんですが、「もう、ここでやらして下さい。」て、いうことになって、その後はずーと、本堂で（疎開に付き添って来られた）浅岡先生が教えてました。当時、庫裏で30人ほどの子どもの世話をする季節保育所（農繁期に近所の幼児を預かる保育所）もしていましたから、お寺が子どもだらけになりましたわ。お参りやお寺の行事もありましたけど、一応とにかくやりました。戦争でしたから、あんなことができたんですわ。あはははは～。

子どもたちであふれかえった信光寺も夕方になると…

夕方になると、やっぱり疎開の皆さん、淋しかつ

たんやな。（本堂の）縁側や階段に腰かけて、そして誰ともなしに「かあちゃん今頃何してる♪」て、大きな声で歌ってね。（その姿を見ると）「あー、かわいそうやなあー」と思ったね。



「信光寺の入口から見て描いた僕たちの信光寺寮 豊国村」
（楯野正雄さんの『疎開帳』、昭和20年3月28日作画）



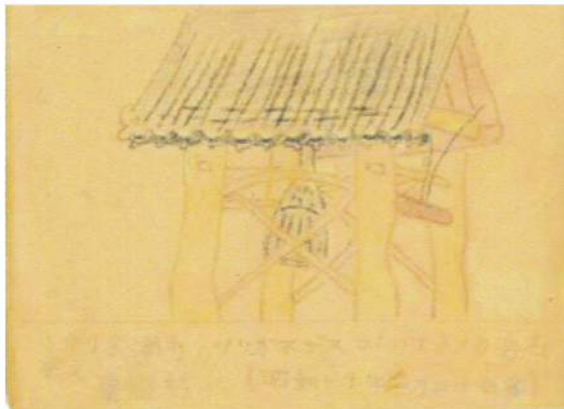
「豊国の学校の僕たちの教室 豊国村」
（楯野正雄さんの『疎開帳』、昭和20年3月30日作画）



豊国国民学校跡（豊国運動公園）



「信光寺の鐘楼 右縁側から南東に向かって書いた信光寺の釣鐘 豊国村」(楯野正雄さんの『疎開帳』、昭和20年3月28日作画)



「隣の東漸寺の釣鐘です これはなかなか有名です 豊国村」(楯野正雄さんの『疎開帳』、昭和20年3月30日作画) 楯野正雄さんが描いた信光寺とお隣のお寺(東漸寺)の鐘楼です。

信光寺の鐘楼には釣鐘がありませんね。実は、信光寺の釣鐘は昭和17年(1942年)12月、金属供出(兵器などにするため、家庭やお寺、学校などから金属製品を強制的に差し出させること)のため、なくなってしまいました。

一方、東漸寺の梵鐘は、愛知郡で2番目に古い釣鐘(康暦元年(1379年)の鑄造)だったため、供出せずに済みました。



左：供出された信光寺の梵鐘(昭和17年12月8日撮影)



右：東漸寺の鐘楼と梵鐘

【体験談—ラジオで大阪大空襲を知って…—】

木津 龍尊さん(愛荘町)

昭和20年(1945年)3月14日夜、大阪をB29戦略爆撃機が襲いました。

その晩は先生が大阪へ帰ってまして、留守やったんです。空襲警報がラジオから聞こえてきましたから、「あーっ」と思って、すぐに本堂へ走って行きました。ところが子どもたちも放送を聞いてたみたいで、大阪の町名がわかりますから、「うちの家が焼けるで〜」って、泣き騒いでたんです。なんぼここで騒いでもしょうがないから大声で「みんな静まれ。ここでなんぼ騒いでみたところで、どういしょうがないんやからね、静かにしなさい。仏さんが守っておくれますよ」といって、子どもたちを寝床へ入れて、一晩中、正面に座ってました。子どもたちもほとんど一晩中、起きてましたよ。

(空襲では、1人を除いて)子どもたちの家が全部、焼けました。まあ、この地区に疎開してきた子どもたちの家族に死者はありませんでした。それだけは幸いでした。

(その3日後)先生もまだ帰って来てませんでしたけど、楯野君のお母さんが、ちょぼちょぼと雨の降る中、裸足でやってきました。「もう家も焼けてしまいましたし、何もございませんで、すいませんけれども、お家の押し入れの隅で結構です、おいてください」て、言われましてね。「それはお気の毒に。それならば…」て、(お寺に)おいてあげたかったんですけど、お断りしたんです。一人だけでなく、全部の方の家が焼けてるんですからね。とてもやない

が、(全部の人をお寺に) おけませんしね。それで、お断りしたんですけど…。

それから間もなく、精華国民学校の疎開児童たちの疎開先が西小椋村(現在の東近江市小倉町)に変更となりました。

3月30日に突然、「あの一。(疎開先を)小倉へ替わらせてもらいます」って、31日には小倉へ移っていったんです。なぜ、替わったか(疎開先が急に変更されたのか)は、いまだに分かりません。(子どもたちの気持ちに寄り添って)一緒に暮らしたのにね。「どうい理由で(別の場所に)行かれるのか?(子どもたちの)取り扱いが悪かったんか?」と、反省までしましたね。

【体験談—信光寺で疎開生活を過ごした人たちの想い—】 境 良蔵さん(堺市)・鳥居 徳三さん(茅ヶ崎市)・毛受 吉彦さん(大阪市)・芝田 栄雄さん(東大阪市)・楯野 正雄さん(津市)

平成6年(1994年)8月30日、疎開生活を過ごしたかつての子どもたち5人が久しぶりに信光寺を訪れました。その時に木津龍尊さんや地域の人たちに話した当時の想いです。

境さん：(昭和20年(1945年)3月31日に疎開先が変更となったことは)我々も淋しかったですよ。どうしてここ(信光寺)が良いとこやのに、なんであんな所(西小椋村の寮)へ行くんかなと思いました。

鳥居さん：向こうへ行ってからは生活が厳しかったね。

境さん：向こうの方(西小椋村の寮)は村の集会所でした。だから、こんなあったかい所じゃないんですわ。それにね、ノミが沢山おましてね、大変な所だったんです。それで淋しくてね。「豊国(信光寺のある豊国村)へ帰りたいなあ」と、思いましたね。

疎開中の子どもたちは、十分な食料の配給がなかったため、いつもお腹がぺこぺこでした。

毛受さん：(信光寺では)ご飯は十分にいただいたと思うな。

芝田さん：(翌年に移っていった)西小椋村の方はごはんが厳しかったね。

毛受さん：みかんは皮ごと食べてたし。

楯野さん：私なんか西小椋村で「お腹が減ったから」といって、(畑に植わっている)麦の実を取りまして、(生で)食べてたんですよ。えらい固いもんやけど、かむとちょっと、汁が出てきておいしくてね。ところがね、決まって下痢しますね。で、下痢すると、「あんたは下痢だから」って、白い御飯を食べさせてもらえないで、おかゆさんになるんです。おかゆさんになると、すごくお腹が減る訳です。辛抱できません訳ですね。それがまた辛いという思いがありましたね。だから下痢やっても、下痢とはいわなかったんですよ。下痢は非常に注意すべきことやったんです。

境さん：柿の渋柿(と普通の柿)との見分けつかんで、誰やったか、(植わっている渋柿の実を無断で取って)食べて、「腹がいたい」とか(いっていたよな)。「衣食足りてなんとかな」と言うけど、ほんとにひもじい時は…



疎開生活を過ごした信光寺の本堂



缶詰1つ、白米5合、大豆5合、そらまめ5合、カボチャ2つ、ワラ草履6足、かさね餅 赤・白、サツマイモ5百目(約2kg)

「僕たちが疎開から帰る時のおみやげ」

(楯野正雄さんが描いた『疎開帳』より)

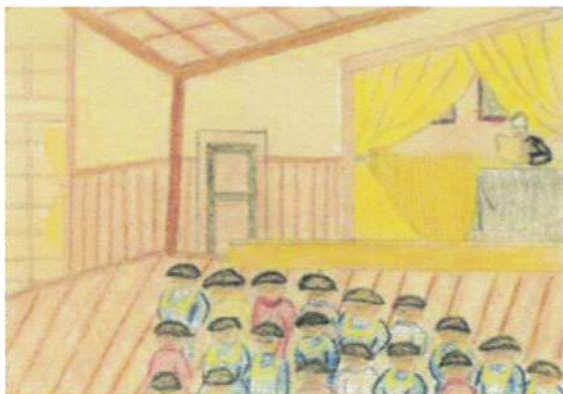
戦後の食糧不足のなか、西小椋村から大阪へ帰る時に楯野正雄さんたちへ、地域の人たちが贈ったおみやげです。

第4章 戦争の終わりと子どもたち

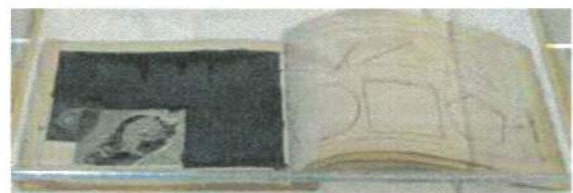
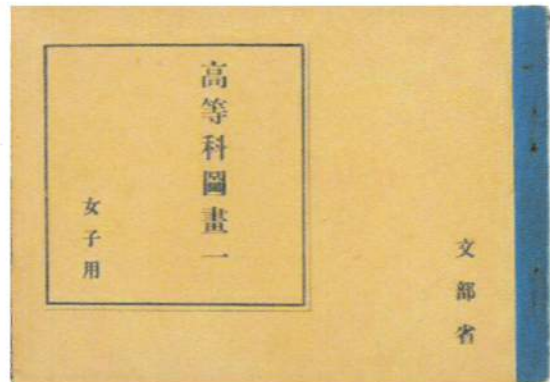
終戦と子どもたち

昭和20年(1945年)8月15日、日本中に玉音放送が流れ、戦争が終わりました。それまで、アメリカなど連合国側の人びとを『鬼畜米英』(オニや動物のように良心を持たない米国人・英国人)とさげすみ、日本の戦争をほめたたえてきた学校現場では、教師たちが今までの教育がなかったかのように、軍国主義的な内容を捨て去った授業を始めました。夏休みが終わった9月の最初の授業で子どもたちは教師から、教科書の戦争を美化するページや軍国主義的な内容に墨を塗り、指示されたページを破り捨てることを命じられました。手本として模写された図工の教科書の戦争の絵も同じ運命をたどりました。子どもたちの中には、これまでと真逆なことを教える教師たちに当惑し、反感を抱いた人もいました。

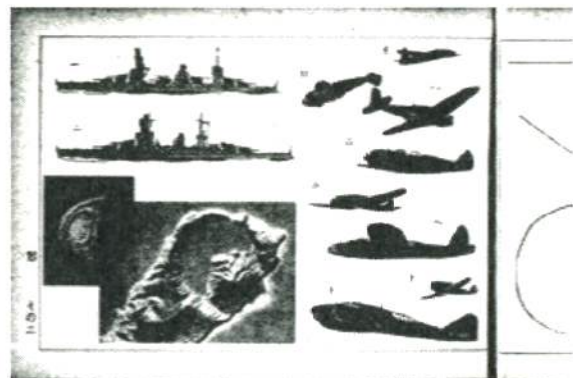
戦争中、多くの子どもたちは、戦場へ向かう父親や兄、親戚のおじさんなど親しい人たちを見送りました。多くの子どもたちが、戦争が終わって、戦場から戻ってきた家族との再会に沸く人々を横目に見ながら、帰ってこない家族を待ち続けました。その後、親しい家族の戦死の知らせや空の遺骨箱を目にした子どもたちは、『戦争とその終わり』をどう思ったのでしょうか。



「校長先生の講話」(音羽美佐江さん作(昭和17年当時、西大路国民学校(現在の日野町立西大路小学校)4年生)



国民学校の図画教科書『高等科図画一』女子用
墨で塗りつぶされた図画の教科書



墨で消される前の図画の教科書の絵(高等科 図画一 男子用)(昭和19年6月13日文部省発行)

展示ケース内の図画教科書(女子用)と同じページです。終戦後、子どもたちは教師の指示で軍艦や戦闘機など戦争の絵を黒く塗りつぶしました。



校長先生から天皇陛下の御言葉を聞く子どもたち

【体験談—終戦と教師の変貌—】

武久 善彦さん（東近江市）

**御園国民学校（現在の東近江市立御園小学校）3年生
だった武久善彦さんの終戦のころの想いです。**

昭和20年（1945年）8月15日までは、学校の先生も「アメリカ人をやっつけろ！」と、言うてはった。今でいう天皇誕生日の祭日、校長先生が奉安殿から天皇陛下の写真を運んできて、講堂の後（の小部屋）に納めはったんやけど、その時、「最敬礼！」て、言うてね。（児童が）頭を下げてる間だけ、扉を開けはるんやわ。ほんで「直れ！」と言わはったときには、もう閉めたるんやわ。そんで、僕は「（運んでいる物は）なんやろな？」と思って、頭上げて見たってん。「なんや〜、写真や」っていったら、「武久、何してるんや!!」て、怒られました。その時は「何で怒られたんや」と思いましたけどね。でも、戦争が終わった途端、講堂の後に行つて覗いたら、もう何もなかったんです。

8月15日に終戦を迎えた武久善彦さんはホッとした反面、これまでとは正反対のことを教える先生たちに反感を抱きました。

「これで家で電気をつけて、ご飯が食べられる」と、ホッとした気持ちになりましたね。ただ、家で電気つけて、暖かいご飯が食べられるというだけでうれしかったです。けど、8月29日に1才の妹が、そして9月には3才の妹が相次いで亡くなったんです。

そのころ、学校が始まってすぐに、先生から「戦争が終わって、うれしかったことを作文に書きましょう」って、言われたんです。（戦争が終わって、まだ1ヶ月ほどしか経っていない）2学期にやぞ!!

それで、「戦争が終わってうれしかったことは、缶詰がたくさんもらえたこと。」って書いたんや。ていうのはね、飛行場の近くだったんで、軍隊（が隠していた）の缶詰を配給とって、タダでもらえたんや。鮭缶とか肉の缶詰とか、今まで食べたことあらへんかったから、そらあ、おいしかった。けど、先生は「そんなこと書くと違うやろ。これからは、アメリカ、イギリスと仲良くしましょう。そのために英語を習いましょう」とか、言わはったけども、私は作文を変えんかったわ。

それから、先生が「もしもしカメよ、カメさんよ♪」を英語に直して歌わはってん。「サンが沈んでムーンが

出た。空にはスターが光ってる」て、教室の後の黒板に書いてあったのを憶えてる。

こういうことを教えてくれた先生は「本当は戦争なんてしたくない」というのが本音やったけど、戦争中は言えなかったんやろな。でも、戦争が終わった途端にこうやった。その先生、全然信用できませんわ。



夏休み宿題帳「ナツノトモ」にかいた慰問の絵と作文 武久善彦さん作（昭和18年当時、御園国民学校（現在の東近江市立御園小学校）1年生）

日本の飛行機が米軍機をやっつけている絵と兵隊さんへの感謝とはげましの作文を書きました。



疎開時の長野景昌さん（右側）

【体験談—終戦を知った浅田君が号泣したわけは…—】

長野 景昌さん（大阪市）

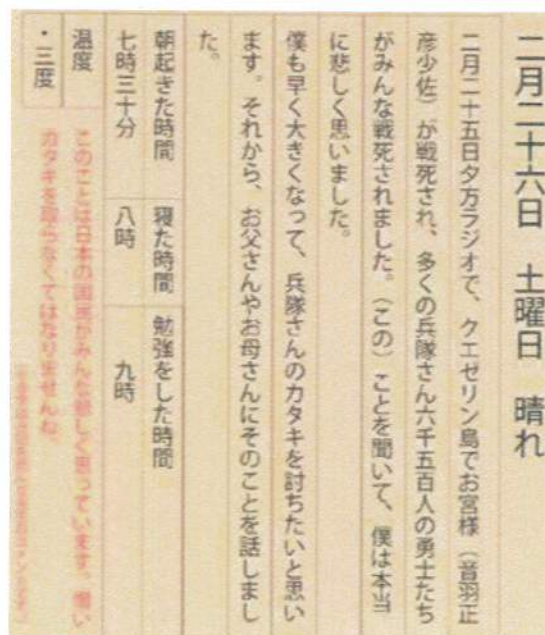
昭和19年（1944年）8月の夏休み最後の日、桃園国民学校（現在の大阪市立中央小学校）の5年生だった長野景昌さんたちは、息長村（現在の米原市の一部）に集団学童疎開してきました。

（疎開生活は）楽しかったとは夢にも思わないけど、ものすごく辛かったという記憶はないな。冬の寒さはいく覚えているけど、勉強をした覚えがないんですよ。

（疎開中）子どもたちのなかでも派閥（グループ）ができたんですよ。ガキ大将が親分で、その下に何人かの子分がおったんです。そのグループと（一匹オオカミの）浅田君が対立してました。ある日、浅田君が手ぬぐいの中に（凶器となる）石を隠してたんです。その後のことは覚えてないけど、おそらく、先生に通報する者がおって、（決闘を）止めたんじゃないかな。

滋賀県へ疎開してから約1年後、長野景昌さんたちは、終戦の日を迎えました。その時に目にした浅田君の姿です。

先生が玉音放送を聴いて帰ってきて、「とにかく2階へ集まれ」ということになったんです。その時は戦争が負けたということが「そんな深刻なことや」と、認識できていませんでしたね。だから、全然、うれしいとも悲しいとも、何も思わなかったんですよ。でもその時、浅田君がものすごく泣い（号泣）たんですよ。そのころはみんな、よくケンカしてましたから、ケンカに負けたら、泣く。そんな姿は見なれてましたけど、尋常やない（普通ではない）ぐらい泣いたんです。担任が「なんであんなに泣くんやろ」というぐらいに。もう、びっくりしました。あとで聞いてみたら、彼の父親が戦死してたんです。家族から「うちの父親は、戦争に命を捧げたんだ」という話を聞いてたから、彼はものすごく泣いたんですよ。



絵日記 昭和19年2月26日「かたき討ち」
上野欽一さん作（当時、城西国民学校2年生）
「大きくなったら、カタキを討ちます」

【体験談—お父ちゃんのお墓は「ウソの墓」や—】

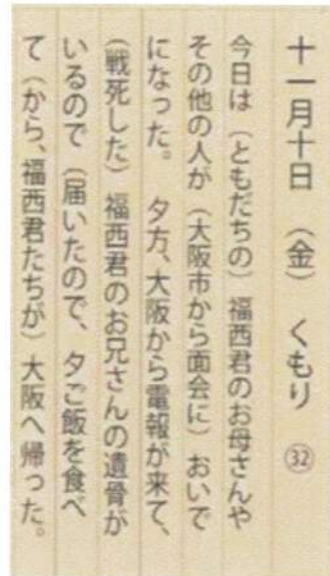
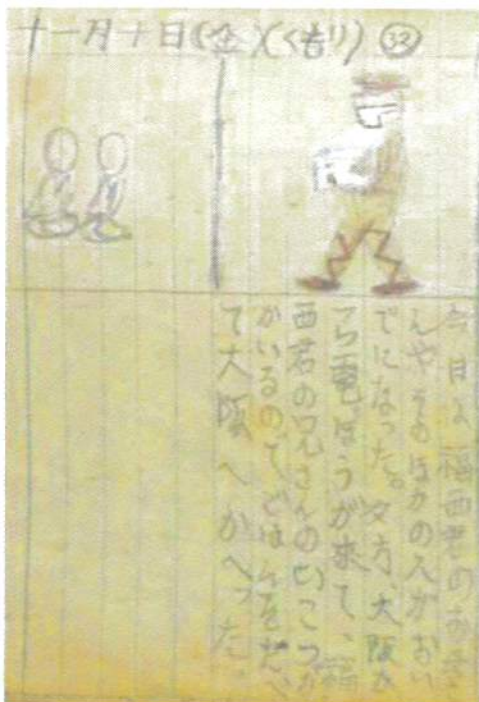
岡部 みかさん (愛荘町)

岡部みかさんは、岡部文吉さんとご結婚され、幸せに暮らしていましたが、文吉さんのもとへ召集令状（軍隊への入隊を命じる書類）が届きました。岡部文吉さんは妻と子どもたちを残して硫黄島へ送られました。

夫は海軍で、戦闘機の整備兵をしてましたけど、昭和20年(1945年)1月に横浜から飛行機で硫黄島へ送られたんですね。(戦争が終わってから届いた)戦死の通知には夫の戦死した日が昭和20年(1945年)3月17日となっていましたから、1月に出発して3月には戦死してるんです。まるで死にに行ったようなものですね。戦後、岡部みかさんのもとへ戦死公報に続いて、夫の遺骨箱が届きました。

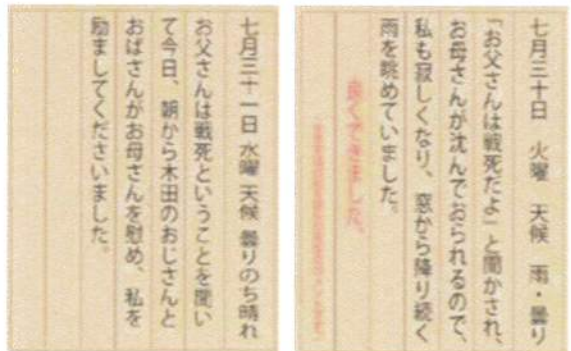
戦死の通知が村に集団で来たんです。それから間もなくして、八木荘村役場(現在の愛荘町の一部)の人が遺骨箱を家まで持って来てくれました。けれども、遺骨箱の中身は空っぽでしたんや。そやから、空っぽの箱の中に夫の写真を入れて、お墓に埋めましたんや。

そのころ、親元の兄弟が負傷して復員して(戦地から戻って)来たんですけど、傷がもとで亡くなったんですね。(遺体を)お墓に埋めたんやけど、それを見てた4歳のうちの子が「お母ちゃん、おっちゃんのは本当のお墓やな。けど、うちのお父ちゃんのお墓はウソのお墓やな。箱に写真が入っているだけやでな」といよるんや。子どももちゃんと分かってましたわ。



坂本正邦さん(当時、西甲良国民学校4年生)の絵日記 昭和19年11月10日「遺骨箱が届く」

昭和19年(1944年)に、御津国民学校(現在の大阪市立南小学校)のみんなど甲良へ集団学童疎開してきました。今日は戦争にいった福西君のお兄さんの遺骨箱が大阪に届いたんだ。



戦死した父親の帰宅(戦後に描かれた『夏休みの絵日記』より) 昭和21年(1946年)7月30日・31日 作者不明

エピソード：戦争を経験した子どもたちからの手紙

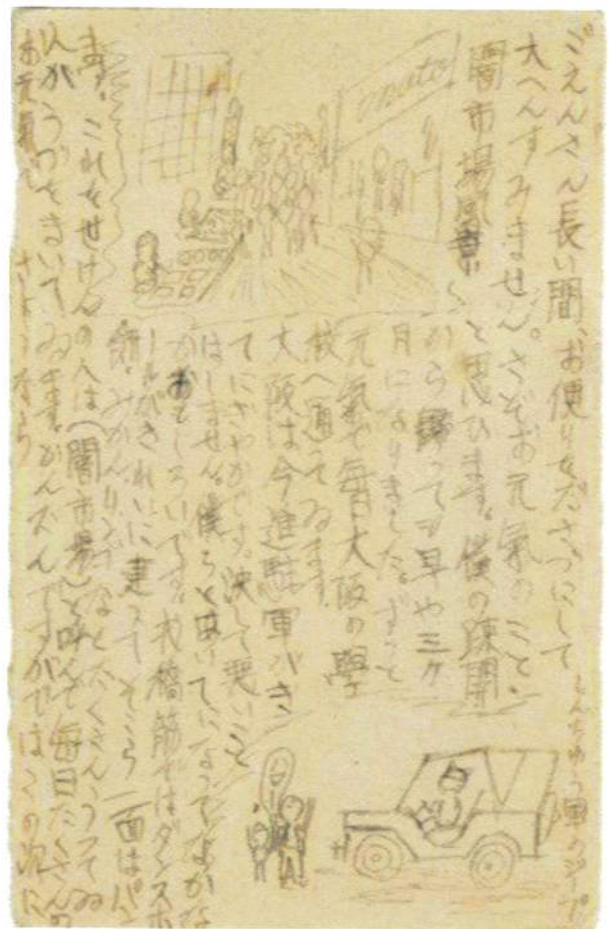
悲惨な戦争とその終わりを体験した子どもたちは、多くのことを学びました。戦後、疎開児童の池島好子さんは、戦争中には決して書けなかった「家に帰りたい気持ちや家族との再会を心待ちにする気持ち」を書いた手紙を家族へ送りました。

疎開中に空襲で自宅を焼かれ、B29爆撃機の絵に「本当に憎い飛行機です」と書いた楯野正雄さんは戦後、お世話になった木津龍尊さんへ「進駐軍は決して悪いことはしません。なかなか面白いです」と、米兵たちと親しく交流する様子や進駐軍のジープに「ハロー」と手を振る自分たちの絵を記した手紙を送りました。戦争中、「鬼畜米英」（米国人は鬼や畜生のように良心がない）と教えられた子どもたちは、米兵との交流のなかで間違いに気づきました。



【内容の訳文】
 幹生さんと邦生さん、進駐軍さん
 お変わりございませんか。私もたいへん元気に勉強や運動をがんばっています。お母さんやお兄さんもお元気ですか。お父さんはまだ多難にいます。もうすぐクリスマスです。お母さんへ贈りたいので、贈る日を振おりに教えています。帰っても泣きたくないです。帰る日が来しみて、楽しみにしています。多謝です。みんなに会える日まで、多謝です。お母さんへ、お父さんへ、お兄さんへ、お姉さんへ、お仲よしより
 池島好子
 昭和二十年十月十七日

多賀青年学校へ疎開中の池島好子さんからお兄さん（池島幹生さん）へのハガキ（昭和20年10月20日消印）



【内容の訳文】
 御縁さんへ。本当に久しぶり。長い間、お便りを出さずに大変です。木津住職はさぞ、お元氣のことと思います。僕たちが疎開から帰ってからは、はや二ヶ月が過ぎました。僕も毎日、元氣に大阪の学校へ通っています。大阪は今、進駐軍が来てにぎやかです。彼らは決して悪いこととはしません。僕らの手となってくれるので、なかなか面白いです。花機筋ではダンスホールがきれいに建て、そこら一面（一面）はパンやお餅、みかん、リンゴなどがたくさん売られています。これを世間の人は「お宝」と呼んでいます。ここでは、毎日たくさんの方が魚を巻くように集まっています。簡単ですが、ではこの次に（お宝）を巻くことにしたいと思います。
 お元氣で、さようなら

大阪へ帰った楯野正雄さんから木津龍尊さんへのハガキ（昭和21年2月2日消印）

ごろんきんお元気ですか。僕達は元気に
 精華へ通って居ります。今日も又雨で、
 た〜いくつでしめたありません。このごろは、
 学校へ行くとき皆と合へるのでそれか一つのたの
 しみになりました。近所の子は、いぢわろで
 いつもけんくわをして居ます。学校帰りに
 待ちます。てゐるのです。こんな者は、日本に
 いません。進駐軍は、速いジープをはしらせ
 て大へんにきやかです。では、お元気に！

戦争中、教科書の絵を写し描くことを教えられた武田倫江さんは、雨の日に舗装されていない水たまりだらけの道で登校する子どもたちの絵も描いています。絵には教科書の絵とともに、雨の日に自分たちの通学路にあったたくさん水たまりが描かれています。手本を取り込んでオリジナルの『雨の日の通学風景』の絵を創造したといえるでしょう。戦争のための学校教育も、子どもたちの「経験から学び・夢に向かって創造する力」を奪い去ることはできなかったのだと思います。

今回の展示の最後に、戦争中に描いた絵とともに武田倫江さんから託された『平和への想い』を紹介いたします。これからの未来を生きるあなた方へのお願いです。



教科書の絵「アメガ フル」(国民学校教科書『エノホン』)
 昭和16年2月18日、文部省発行



「みずたまり」武田倫江さん作
 (昭和20年(1945年)当時、長浜国民学校3年生)

【内容の訳文】

御縁さん(ご住職の木津龍尊 様)お元気ですか？ 僕
 たちは、元気に大阪市立精華国民学校に通っています。
 今日もまた雨でしたので、退屈(たいくつ)でしかたありません。最
 近は、学校に行くときみんなに会えるので楽しいです。
 学校の近所の子どもがいじわるで、いつもケンカにな
 ります。学校の帰り道で待ち構えているのです。こんな
 者は(戦後の)日本にいません。
 進駐軍が(街なかの道で)速いジープを走らせて、大
 変にぎやかです。
 では、お元気に！

大阪へ帰った疎開児童から木津龍尊さんへのハガキ
 (昭和21年3月20日消印)

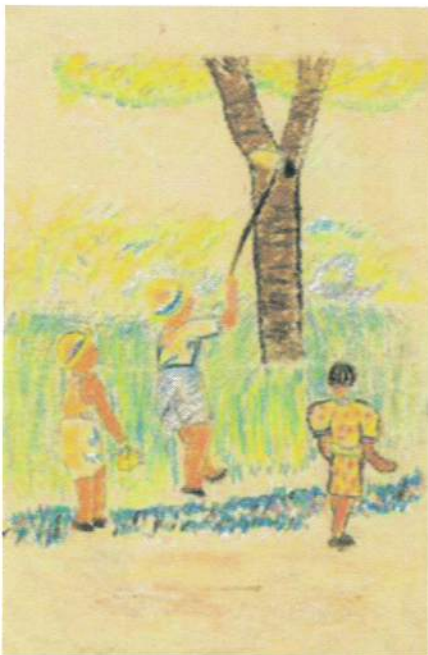
【体験談—子どもたちへ、そしてその子どもたちへのお願い—】
 武田 倫江さん（長浜市）
 戦争のころ、学校でたくさんの絵を描かれた武田倫江さんから『皆さんへのお願い』です。

私は戦争に巻き込まれたけど、大人は『それが正しい』と思って、間違っって戦争の道へ行ってしまったの。子どもは何にも分からへんかった。だから怖いんや。

子どもは純真無垢でしょ。大人が教えたら「スー」と頭に入ってしまう。善でも悪でもなっちゃうわけや。生まれた赤ちゃんを泥棒に育てるのも、学者に育てるのも親次第。日本中の子どもたちが間違っった方向に向かっってしまったら大変なことになると思う。

やっぱり、『命っていうのが一番大事』だから。戦争なんかで命取られるなんて、考えられへんやん。『何のために生まれて、生きてきたか？』ってことになっちゃうもんなあ。人間は愚かやね。だから、「言葉も大切にや」と思うし、私も言葉上手じゃないけど、「自分が、自分が」って思うから、いさかい（けんか）や戦争が起きるんちがうかな？

相手のことを思いやったり、モノを大切にしていかないと、大変なことになるよ。『自分たちだけが良かったらよい』ではないからね。子どもたちや、その子どもたちも、幸せに暮らして欲しいからねえ。



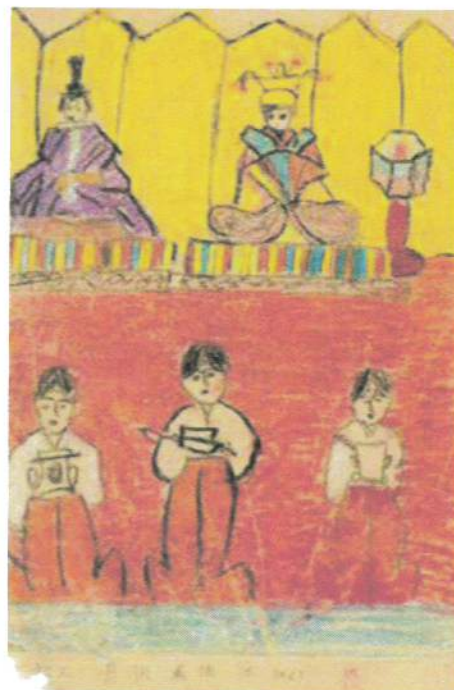
「虫取り」音羽美佐江さん作

(昭和16年(1941年)当時、西大路国民学校3年生)



「団圓裏はた」音羽美佐江さん作

(昭和16年(1941年)当時、西大路国民学校3年生)



「おひな様」音羽美佐江さん作

(昭和16年(1941年)当時、西大路国民学校3年生)

第30回企画展示「子どもたちが描いた戦争」展示資料一覧表

展示資料番号	資料名	点数	資料説明	提供者名
プロローグ				
1 子どもたちが描いた戦争の絵				
1	「大東亜戦争絵巻」	1	北川巖さん・林宏さん作	北川泰三さん
2	絵画集「山脇君に贈る 五男一同」	1	北五個荘尋常小学校五年男子児童一同から転校する山脇さんへ贈った絵画集	大幡義融さん
3	慰問の絵「タカハシのおじさん がんばれ！がんばれ！」	1	アキコさん作、児童が戦争に行った高橋助男さんへ送ったもの	高橋登栄子さん
4	「戦車の絵」	1	音羽美佐江さん作	音羽利郎さん
2 お手本のとおり描きました				
5	国民学校教科書『エノホナー』	1	昭和16年2月18日、文部省発行	個人
6	「切り絵のグンカン(軍艦)」	1	武田倫江さん作	武田倫江さん
7	「大掃除」	1	武田倫江さん作	武田倫江さん
8	「スキヘイサン(水兵さん)」	1	武田倫江さん作	武田倫江さん
9	「一年生のラジオ体操」	1	トシコさん作、児童が戦争に行った高橋助男さんへ送ったもの	高橋登栄子さん
10	「日の丸の絵」	1	武田倫江さん作	武田倫江さん
11	「日の丸にバンザイする少女」	1	武田倫江さん作	武田倫江さん
12	「防空演習」	1	音羽美佐江さん作	音羽利郎さん
第1章 戦争のころの子どもたちー遊びと学校ー				
第1節 子どもたちの身近にあった戦争				
13	おもちゃのヘルメット	1	陸軍の鉄カブトを模したもの	個人
14	海軍服風の子供服 上下	1	軍隊ごっこのお洋服	個人
15	水筒	1		個人
16	飯ごう	1		個人
17	兵士と子どもたち 陶器製おもちゃの人形	6	双眼鏡を持つ陸軍兵士、航空兵、銃を持つ陸軍兵士、陸軍兵士、男の子、女の子	個人
18	おやつのアメ「渡辺軍国アメ」	1	渡辺製菓合名会社製造	個人
19	おもちゃの木製軍用トラック	1		個人
20	カルタ	1		個人
21	児童向けの雑誌『愛国少年』	1	昭和11年7月号、愛国少年社発行	個人
22	ぬり絵「ヨイコ ヌリエ」	1		個人
23	児童用雑誌のふろく「カタバルト 飛行機を打ち出す」	1	『少年倶楽部』第19巻第21号の附録、昭和7年11月1日、大日本雄弁会発行	個人
24	子ども用茶碗	4		個人
25	陶製の箸置き	1		個人
26	紙芝居『子供召集令』	1		結城様雄さん
27	絵日記	1	上野欽一さん作	上野欽一さん
第2節 戦争のころの学校				
1 戦争のための学校・授業				
28	国民学校の国語教科書『初等科国語』七	1	昭和18年2月28日、文部省発行	滋賀県
29	国民学校の修身教科書『初等科修身』一	1	昭和17年4月11日、文部省発行	個人
30	ノート「練習帳 ヨミカタ」	1	国民学校初等科一年生用	個人
31	ノート	1		個人
32	算数練習用カード	1		個人
33	『国民学校写真解説』	1	昭和16年3月19日、朝日新聞社発行	久保滋さん
34	クレパス	1		個人
35	クレヨン「國画クレヨン」	1		個人
36	クレヨン「タマイロクレヨン」	1	玉色クレヨン製造所製造	個人
37	えんぴつ「武運長久」鉛筆	1	三菱鉛筆製造など	個人
38	画用紙「特選 画学紙」	1		個人
39	児童用学生服上・下	1		個人
40	木銃	1		北川麗三さん
41	国民学校一年生の通信簿	1	彦根市彦根西国民学校 第一学年誠組 秋山ひささんのもの	秋山ひささん
42	慰問作品入賞の賞状「応徴士慰問激励児童作品入賞について」	1	国民学校初等科三年の秋山ひささんが受賞	秋山ひささん
2 戦争のための授業・軍事教練				
43	こどもたちの防空訓練	5	戦争中に子供時代を過ごした正野雄三さんが戦後に制作した土人形	正野光博さん
44	学校での軍事教練の教科書『学校教練教科書 術科之部』前編・後編 各1冊	2	昭和16・17年、軍人会館図書部発行	若林重元さん
45	訓練用手りゅう弾(模擬手りゅう弾)	1		能登川西小学校

展示資料番号	資料名	点数	資料説明	提供者名
46	訓練用手りゅう弾(模擬手りゅう弾)	1		村上九蔵さん
47	訓練用手りゅう弾(模擬手りゅう弾)	1		辰巳勝さん
48	訓練用手りゅう弾(模擬手りゅう弾)	1		奥田多紀子さん
49	訓練用手りゅう弾(模擬手りゅう弾)	2		滋賀県
50	手りゅう弾	1	本物の手りゅう弾	個人
51	簡易模型飛行機	2		個人
52	『模型飛行機の作り方』上巻	1	F・シューターマー、A・リピッ共著、碓氷東士訳、昭和16年11月25日、科学主義工業社発行	個人
53	航空兵志願のためのパンフレット『陸軍少年飛行兵志願問答－志願の手引き－』	1	陸軍航空本部発行	個人
第2章 感謝する子どもたち・働く子どもたち				
第1節 兵士の出征見送り・戦死者のお出迎え				
54	出征の風景	11	戦争中に子供時代を過ごした正野雄三さんが戦後に制作した土人形	正野光博さん
55	「愛国唱歌集」	1		結城煤雄さん
56	ラッパ	1		個人
57	日の丸の小旗	1	「京都市有隣尋常小学校児童一同」の墨書があるもの	安田虎次郎さん
58	日の丸の小旗	1		中西一雄さん
第2節 子どもたちからの慰問				
1 特攻と子どもたちからの慰問				
59	国民学校6年生の女子児童から吉田信太郎さんへの手紙	1		吉田亀治郎さん
60	膳所国民学校6年生の女子児童から吉田信太郎さんへの手紙	3		吉田亀治郎さん
61	慰問の手紙に添えられた水彩画	1	膳所国民学校6年生の女子児童から贈られたもの	吉田亀治郎さん
62	吉田信太郎さんの海軍軍帽	1	吉田信太郎さんが着用していた海軍の軍服です	吉田亀治郎さん
63	吉田信太郎さんの軍服上衣	1	吉田信太郎さんが着用していた海軍の軍服です	吉田亀治郎さん
64	吉田信太郎さんが描いた水彩画「住宅風景」	1		吉田亀治郎さん
65	吉田信太郎さんが描いた水彩画「鳥居と橋」	1		吉田亀治郎さん
66	吉田信太郎さんが描いたスケッチ画「水路」	1	八幡堀か？	吉田亀治郎さん
67	吉田信太郎さんが描いたスケッチ画「村の風景」	1		吉田亀治郎さん
68	吉田信太郎さんが描いた油絵「肖像画」	1		吉田亀治郎さん
69	絵具箱	1		吉田亀治郎さん
70	パレット・絵筆・パレットナイフ	1	絵具箱に入っていたもの	吉田亀治郎さん
71	油絵用オイルの紙箱	1	吉田信太郎さんが「画用油類入 信太郎用 掃宅込(マデ) 手ヲ附ザル事」と書いたもの	吉田亀治郎さん
72	吉田信太郎さんの手帳『随想』	1	出撃当日の想いが記された手帳	吉田亀治郎さん
73	自宅に遺された白紙のキャンバス	1	作画のため、木製キャンバスに白色の下地が塗られたもの	吉田亀治郎さん
2 慰問する側・受ける側				
74	「絵に描いたお餅つき」(ヨコ構図)	1	音羽美佐江さん作	音羽利郎さん
75	「やさい」	1	音羽美佐江さん作	音羽利郎さん
第3章 戦争にまき込まれた子どもたち－空襲と避難－				
第1節 米軍機による攻撃(空襲)と子どもたち				
76	防空頭巾	1		個人
77	米軍機から発射された爆弾・銃弾	1	昭和20年7月30日、守山駅周辺で米軍機が攻撃に使用したものの	西村良治さん
78	八日市飛行場跡で拾われた機銃弾の薬莢	1	飛行場への空襲に米軍が使用したものと思われます	武村友幸さん
79	八日市飛行場に投下された米軍の爆弾片	5	戦後、八日市飛行場跡で拾われた鉄片です	武村友幸さん
80	標語「防空防火」	1	昭和14年(1939年)に高等女学校(現在の中学1年生)が描いたもの	個人

展示資料 番号	資料名	点数	資料説明	提供者名
81	布製バケツ	1	現在の近江八幡市にあった北里村で使用されたもの	個人
82	布製バケツ	1	「開智」「五警」と書かれたもの	個人
83	防火用バケツ	1	「火用水専用」と書かれたもの	個人
84	小型リュック型カバン	1		個人
85	防空用砂袋	1		個人
86	消火弾	1		長命寺
第2節 集団学童疎開				
87	信光寺で疎開児童が使った机	1	信光寺で使われたもの。裏面に「信光寺什物 大阪市精華国民学校集団疎開記念 昭和二十年三月吉日」の墨書	木津順子さん(借用資料)
88	楯野正雄さんが描いた『疎開帳』	1	疎開中にかいたもの	木津順子さん(借用資料)
89	信光寺寮のかんばん「大阪市立精華国民学校信光寺寮」	1	学童疎開で使用されたもの	木津順子さん(借用資料)
90	紙で作られた食器	1		個人
91	食器皿	1	久宝国民学校の疎開児童の親が我が子のために疎開先に届けた皿	鎌田志津子さん
92	手作りのマス	1	久宝国民学校が疎開先で使用したもの「久宝校」の焼き印が押されている	平井良賢さん
93	集団疎開関係書類綴り	1		丸尾好子さん
94	大宝国民学校の疎開児童名簿「集団疎開児童名簿」	1		丸尾好子さん
95	手紙に添えられた習字「野原若草子馬」	1	池島好子さんがお父さんに送った手紙に同封されていたもの	丸尾好子さん
96	坂本正邦さんが疎開時に描いた『絵日記』	1		坂本正邦さん
97	池島好子さんからお父さんへの手紙	1	昭和20年7月31日消印	丸尾好子さん
98	池島好子さんから池島彊さんへのハガキ	1	昭和20年8月3日消印	丸尾好子さん
第4章 戦争の終わり子どもたち				
99	国民学校の図画教科書『高等科図画一』 女子用	1	昭和19年7月3日、文部省発行	個人
エピソード 戦争を経験した子どもたちからの手紙				
100	大阪へ帰った楯野正雄さんから木津龍尊さんへのハガキ	1	昭和21年2月2日消印	木津順子さん(借用資料)
101	大阪へ帰った疎開児童から木津龍尊さんへのハガキ	1	昭和21年3月20日消印	木津順子さん(借用資料)
102	池島好子さんから池島幹生さんへのハガキ	1	昭和20年10月20日消印	丸尾好子さん
103	「みずたまり」	1	武田倫江さん作	武田倫江さん
104	「虫取り」	1	音羽美佐江さん作	音羽利郎さん
105	「困炉裏はた」	1	音羽美佐江さん作	音羽利郎さん
106	「おひな様」	1	音羽美佐江さん作	音羽利郎さん

第30回企画展示「子どもたちが描いた戦争」 写真・図表パネル一覧表

章	節	項	写真・図表タイトル	提供者	備考	
メインタイトル		パネル	音羽美佐江さんが国民学校で描いた絵	音羽利雄さん	音羽美佐江さん作	
プロローグ	1 子どもたちが描いた戦争の絵		「飛行機と落下傘」	武田倫江さん	武田倫江さん作	
			「東洋平和」	大幡義融さん	作者不詳、絵画集「山脇君に贈る 五男一同」より	
			「見ヨ 白兵戦」	大幡義融さん	作者不詳、絵画集「山脇君に贈る 五男一同」より	
			「敵の軍艦を攻撃する日本軍機」	音羽利郎さん	音羽美佐江さん作	
			「南方の戦場で戦う兵士たち」	音羽利郎さん	音羽美佐江さん作	
			戦場へ向かう川島先生と音羽美佐江さんの家族	音羽利郎さん		
			「タカハシのおじさん がんばれ！がんばれ！」	高橋登栄子さん	アキコさん作	
			「航空記念日」	山中文夫さん	作者不詳	
		2 お手本のとおりに描きました		教科書の絵『クレイナ ハナ』	個人	国民学校教科書『エノホニー』昭和16年2月18日、文部省発行
			「チューリップの切り絵」	武田倫江さん	武田倫江さん作	
			「大東亜戦争絵巻」	北川泰三さん	北川巖さん・林宏さん作	
			絵のモデル『大東亜戦争漫画日誌』の「ワシントン泥会談」	久保滋さん	作者石川進介『写真週報』第205号、情報局編集、昭和17年1月28日発行	
			絵のモデル『大東亜戦争漫画日誌』の「マニラ陥落」	久保滋さん	作者石川進介『写真週報』第205号、情報局編集、昭和17年1月28日発行	
			絵のモデル『大東亜戦争漫画日誌』の「うわーッ ラジオ止めてくれ」	久保滋さん	作者石川進介『写真週報』第206号、情報局編集、昭和17年2月4日発行	
			絵のモデル『大東亜戦争漫画日誌』の「旅行気分の米俘虜護送さる」	久保滋さん	作者石川進介『写真週報』第206号、情報局編集、昭和17年2月4日発行	
			絵のモデル『大東亜戦争漫画日誌』の「ほら早く旗を持つんだッ」	久保滋さん	作者石川進介『写真週報』第206号、情報局編集、昭和17年2月4日発行	
			絵のモデル『大東亜戦争漫画日誌』の「フィリピン人大喜び」	久保滋さん	作者石川進介『写真週報』第207号、情報局編集、昭和17年2月11日発行	
			絵のモデル『大東亜戦争漫画日誌』の「タイ 米英に宣戦布告」	久保滋さん	作者石川進介『写真週報』第207号、情報局編集、昭和17年2月11日発行	
			絵のモデル『大東亜戦争漫画日誌』の「お砂糖の特配に歓呼あがる」	久保滋さん	作者石川進介『写真週報』第207号、情報局編集、昭和17年2月11日発行	
			絵のモデル『大東亜戦争漫画日誌』の「風前の灯 シンガポール」	久保滋さん	作者石川進介『写真週報』第207号、情報局編集、昭和17年2月11日発行	
			絵のモデル『大東亜戦争漫画日誌』の「命の綱」	久保滋さん	作者石川進介『写真週報』第208号、情報局編集、昭和17年2月18日発行	
			絵のモデル『大東亜戦争漫画日誌』の「わが落下傘部隊初奇襲」	久保滋さん	作者石川進介『写真週報』第210号、情報局編集、昭和17年3月4日発行	
			「大掃除」	武田倫江さん	武田倫江さん作	
			教科書の絵『大さうぢ(大掃除)』	広島大学図書館	国民学校教科書「初等科図画一」(昭和17年2月21日、文部省発行)	
			「一年生のラジオ体操」	高橋登栄子さん	トシコさん作	
			教科書の絵『タイサウ』	個人	国民学校教科書『エノホニー』昭和16年2月18日、文部省発行	
			「防空演習」	音羽利郎さん	音羽美佐江さん作	
			教科書の絵『防空演習』	広島大学図書館	国民学校教科書「初等科図画二 女子用」(昭和17年2月17日、文部省発行)	
			「切り絵のグンカン(軍艦)」	武田倫江さん	武田倫江さん作	
	教科書の絵『グンカン』		個人	国民学校教科書『エノホニー』昭和16年2月18日、文部省発行		
	教科書の絵『ハタ』	個人	国民学校教科書『エノホニー』昭和16年2月18日、文部省発行			
	「日の丸の絵」	武田倫江さん	武田倫江さん作			
	「日の丸と満洲国のハタ」	高橋登栄子さん	アキコさん作			
	「日の丸のハタ」	音羽利郎さん	音羽美佐江さん作			

章	節	項	写真・図表タイトル	提供者	備考		
			「スキヘイサン(水兵さん)」	武田倫江さん	武田倫江さん作		
			教科書の絵『スキヘイサン』	個人	国民学校教科書『エノホナー』昭和16年2月18日、文部省発行		
			長浜国民学校の入学式集合写真	武田倫江さん	武田倫江さんは前列2列目右から5人目、昭和18年(1943年)4月撮影		
第1章 戦争のころの子どもたちー遊びと学校ー	第1節 子どもたちの身近にあった戦争	バナー	戦争のころのお母さんと子ども 幼い我が子におもちゃの軍服を着せる母親	佐々木観高さん			
			学校の教練？戦争ごっこ？	佐々木観高さん			
			紙芝居『白くんの牛もん袋』	結城襟雄さん			
			紙芝居『子供召集令』	結城襟雄さん			
			絵日記 昭和18年10月27日「百貨店の展覧会」	上野欽一さん	上野欽一さん作		
			絵日記 昭和19年1月17日「映画を見にいきました」	上野欽一さん	上野欽一さん作		
	第2節 戦争のころの学校	1 戦争のための学校・授業	学校の防空訓練	久保滋さん	『国民学校写真解説』昭和16年3月、朝日新聞発行		
			小学生徒の田植え実習	高島市教育委員会	石井田勤二さん撮影		
		2 戦争のための授業・軍事教練	絵日記 昭和18年9月18日「防空演習」	上野欽一さん	上野欽一さん作		
			広徳寺の山上庚申奉安殿	当館	甲賀市水口町所在、旧貴生川町立国民学校の奉安殿を戦後に移築した建物		
			奉安庫を警護する子どもたち	久保滋さん	『国民学校写真解説』昭和16年3月、朝日新聞発行		
			瀬田国民学校五年智組学級日誌 (昭和19年)6月5日「武道」	大津市歴史博物館			
			体育の授業(なぎなたの練習)	高島市教育委員会	石井田勤二さん撮影		
			手りゅう弾の投げ方	若林重元さん	『学校教練教科書』より		
			絵日記 昭和19年2月2日「行軍」	上野欽一さん	上野欽一さん作		
			瀬田国民学校五年智組学級日誌 (昭和19年)9月20日「航空日 模型飛行機を飛ばす」	大津市歴史博物館			
			学校の軍事訓練でグライダーの練習をする子どもたち	久保滋さん	『国民学校写真解説』昭和16年3月、朝日新聞発行		
			市街地での射撃訓練の授業	高島市教育委員会	今津中学校(現在の高島高等学校)の学校教練を石井田勤二さんが撮影		
			第1節 兵士の出征見送り・戦死者のお出迎え	絵日記 昭和18年6月20日「近所のおじさんのお見送り」	戦争へ行く兵士の見送り	高島市教育委員会	今津棧橋にて、昭和12年に石井田勤二さん撮影
					戦争へ行く兵士の見送り	高島市教育委員会	江若鉄道の近江今津駅にて、昭和11年9月28日に石井田勤二さん撮影
戦争へ行く兵士の見送り	高島市教育委員会	江若鉄道の近江今津駅にて、石井田勤二さん撮影					
戦争へ行く兵士の見送り	高島市教育委員会	近江今津駅付近？、昭和10年9月4日に石井田勤二さん撮影					
戦争へ行く兵士の見送り	高島市教育委員会	中浜太湖汽船乗り場付近にて、石井田勤二さん撮影					
瀬田国民学校五年智組学級日誌 (昭和19年)6月6日「杜行式」	大津市歴史博物館						
絵日記 昭和18年11月14日「戦死した人が帰ってきました」	上野欽一さん	上野欽一さん作					
兵士の村葬(地域での葬儀)	高島市教育委員会	高島郡にて、石井田勤二さん撮影					
1 特攻と子どもたちからの慰問	膳所国民学校六年生の女子児童から吉田信太郎さんへの手紙 その1	吉田亀治郎さん					
	膳所国民学校六年生の女子児童から吉田信太郎さんへの手紙 その2	吉田亀治郎さん					
	膳所国民学校六年生の女子児童から吉田信太郎さんへの手紙 その3	吉田亀治郎さん					
	国民学校六年生の女子児童から吉田信太郎さんへの手紙	吉田亀治郎さん					
	子犬の散歩をする少女とタコ揚げ	吉田亀治郎さん		膳所国民学校六年生の女子児童から吉田信太郎さんへの手紙 その2の絵			
	基地へ校外学習か慰問に訪れた子どもたちと吉田信太郎さん	吉田亀治郎さん		後方中央のやや左側の人物			

章	節	項	写真・図表タイトル	提供者	備考	
第2章 感謝する子どもたち・働く子どもたち	第2節 子どもたちからの慰問		特攻で亡くなった吉田信太郎さん	吉田亀治郎さん		
			滋賀師範学校で描かれた絵	宇野博巳さん		
		2 慰問する側・受ける側	「絵にかいたお餅つき」	音羽利郎さん	音羽美佐江さん作	
			「おいしそうなフルーツバスケット」	音羽利郎さん	音羽美佐江さん作	
			「やさい」	音羽利郎さん	音羽美佐江さん作	
			教科書の絵「やさい」	個人	国民学校教科書「初等科図画三」(昭和18年2月22日、文部省発行)	
	扁丘美代さんたちの近江高等女学校入学式集合写真		扁丘美代さん	昭和19年(1944年)6月4日撮影		
	第3節 働く子どもたち(勤労働員・勤労奉仕)	バナー	働く子どもたち 戦争に行った兄へ妹がおくったハガキの絵	碓本綾子さん	碓本綾子さん作	
			瀬田国民学校五年智組学級日誌(昭和19年)9月18日「高等科学徒動員」	大津市歴史博物館		
			「兵器工場で働く外村つげ子さんたち」	—	文集『仁礼 四十年誌 滋賀県立愛知高等女学校昭和20年卒業』昭和60年8月、仁礼会発行より引用	
			「外村つげ子さんたちが兵器工場で食べた食事」	—	文集『仁礼 四十年誌 滋賀県立愛知高等女学校昭和20年卒業』昭和60年8月、仁礼会発行より引用	
			食料増産隊記念写真	高瀬昇一郎さん・青木安司さん提供写真を合成	昭和18年か19年、滋賀県庁にて撮影	
			学校の授業の楯体操	久保滋さん	『国民学校写真解説』昭和16年3月、朝日新聞発行	
			学校での農作業	久保滋さん	『国民学校写真解説』昭和16年3月、朝日新聞発行	
	第3章 戦争にまき込まれた子どもたち—空襲と避難—	第1節 米軍機による攻撃(空襲)と子どもたち	バナー	空襲を受けた時の練習【防空訓練】の絵	吉田亀治郎さん	
				瀬田国民学校五年智組学級日誌(昭和20年)2月15日「4時間目に空襲警報発令 大空にはたくさんすじが ついた」	大津市歴史博物館	
				絵日記 昭和20年8月2日「敵機が彦根付近にやって来た」	坂本正邦さん	坂本正邦さん作
				吉田武司さんのご親族の集合写真	吉田武司さん	前列左から2人目が兄の義信さん、3人目が姉の芳江さん、その後ろでお母さんに抱っこされているのが武司さん
				長浜を空襲した米軍機	中島孝治さん	昭和20年8月6日、中島孝治さん(当時16歳ころ)が撮影
				「B29」	木津順子さん	樺野正雄さんが描いた『疎開帳』より、昭和20年10月1日
		「いつも出している机の上で何かを書いている友だち」	木津順子さん	樺野正雄さんが描いた『疎開帳』より、昭和20年10月6日作画		
		「僕たちが宿舎で授業しているところ」	木津順子さん	樺野正雄さんが描いた『疎開帳』より、昭和20年10月7日作画		
		「楽しい食事」	木津順子さん	樺野正雄さんが描いた『疎開帳』より、昭和20年10月18日作画		
		「僕たちが前の広場で良くやった野球」	木津順子さん	樺野正雄さんが描いた『疎開帳』より、昭和20年10月6日作画		
		「朝の体操」	木津順子さん	樺野正雄さんが描いた『疎開帳』より、昭和20年10月7日作画		
		「小倉寮(小倉会議所) 真正面の広場から書いた小倉寮」	木津順子さん	樺野正雄さんが描いた『疎開帳』より、昭和20年10月3日作画		
		「西小椋村に昭和20年4月1日に来た 小倉寮の平面図」	木津順子さん	樺野正雄さんが描いた『疎開帳』より、昭和20年10月27日作画		
		疎開児童が過ごした小倉寮跡(小倉公民館)	当館	建物の前の駐車スペースが、子どもたちが野球や体操をしていた広場でした		
		「僕たちの就寝」	木津順子さん	樺野正雄さんが描いた『疎開帳』より、昭和20年10月19日作画		
		「小倉寮から見て真正面にある村の家」	木津順子さん	樺野正雄さんが描いた『疎開帳』より、昭和20年9月28日作画		
		小倉寮跡から見て真正面にある村の家	当館	樺野正雄さんの絵に描かれた2階建ての土蔵が現存しています		
		「裏の山の名高い小倉城跡」	木津順子さん	樺野正雄さんが描いた『疎開帳』より、昭和20年10月7日作画		
		小倉寮の裏山にある小倉城跡	当館	石碑や下の段の石垣が樺野正雄さんの絵に描かれています。		

章	節	項	写真・図表タイトル	提供者	備考
	第2節 集団学童疎開		国民学校4年生のころの樋口良次さんとお姉さん	樋口良次さん	昭和17年(1942年)ころ撮影
			疎開に使用された旧中央公会堂の建物	当館	現在の近江八幡ユースホテル
			『わかもと』の広告	久保滋さん	『写真週報』第143号、昭和15年11月20日、情報局発行
			多賀青年学校へ疎開中の池島好子さんからお父さんへの手紙	丸尾好子さん	昭和20年7月31日(消印)
			多賀青年学校へ疎開中の池島好子さんからお兄さん(池島彊さん)への手紙	丸尾好子さん	昭和20年8月3日(消印)
			「1週間の食事やおやつ」	坂本正邦さん	甲良町へ集団学童疎開した坂本正邦さんの『絵日記』、昭和19年10月作画
			「信光寺の入口から見て描いた僕たちの信光寺寮 豊国村」	木津順子さん	楯野正雄さんの『疎開帳』、昭和20年3月28日作画
			「豊国の学校の僕たちの教室 豊国村」	木津順子さん	楯野正雄さんの『疎開帳』、昭和20年3月30日作画
			豊国国民学校跡(豊国運動公園)	当館	
			「信光寺の鐘楼 右縁側から南東に向かって書いた信光寺の釣鐘 豊国村」	木津順子さん	楯野正雄さんの『疎開帳』、昭和20年3月28日作画
			「隣の東漸寺の釣鐘です これはなかなか有名です 豊国村」	木津順子さん	楯野正雄さんの『疎開帳』、昭和20年3月30日作画
			東漸寺の鐘楼と梵鐘	当館	
			供出された信光寺の梵鐘	木津順子さん	昭和17年12月8日撮影
			疎開生活を過ごした信光寺の本堂	当館	
			「僕たちが疎開から帰る時のおみやげ」	木津順子さん	楯野正雄さんが描いた『疎開帳』より
第4章 戦争の終わりと子どもたち			夏休み宿題帳「ナツノトモ」にかいた慰問の絵と作文	武久善彦さん	武久善彦さん作
			「校長先生の講話」	音羽利郎さん	音羽美佐江さん作
			校長先生から天皇陛下の御言葉聞く子どもたち	久保滋さん	『国民学校写真解説』昭和16年3月、朝日新聞発行
			墨で消される前の図画の教科書の絵	国立国会図書館	『高等科 図画一 男子用』昭和19年6月13日、文部省発行
			絵日記 昭和19年2月26日「かたき討ち」	上野欽一さん	上野欽一さん作
			疎開時の長野景昌さん(右側)	長野景昌さん	
			絵日記 昭和19年11月10日「遺骨箱が届く」	坂本正邦さん	坂本正邦さん作
			戦死した父親の帰宅	長浜市立高月図書館	戦後に描かれた『夏休みの絵日記』より、昭和21年7月30日・31日 作者不明
エピソード 戦争を経験した子どもたちからの手紙			多賀青年学校へ疎開中の池島好子さんからお兄さん(池島幹生さん)への手紙	丸尾好子さん	昭和20年10月20日(消印)
			大阪へ帰った楯野正雄さんから木津龍尊さんへの手紙	木津順子さん	昭和21年2月2日(消印)
			大阪へ帰った疎開児童から木津龍尊さんへの手紙	木津順子さん	昭和21年3月20日(消印)
			教科書の絵「アメガ フル」	個人	国民学校教科書『エノホナー』昭和16年2月18日、文部省発行
			「みずたまり」	武田倫江さん	武田倫江さん作、昭和20年
			「虫取り」	音羽利郎さん	音羽美佐江さん作、昭和16年
			「囲炉裏はた」	音羽利郎さん	音羽美佐江さん作、昭和16年
			「おひな様」	音羽利郎さん	音羽美佐江さん作、昭和16年

令和3年度 滋賀県平和祈念館企画展示実施報告書

編集・発行：滋賀県平和祈念館

〒527-0157 東近江市下中野町 431 番地

TEL:0749-46-0300 / FAX:0749-46-0350

E-mail: heiwa@pref.shiga.lg.jp

印刷：株式会社デジ・プリント滋賀

発行日：令和5年（2023年）3月31日

